
僕と親友と召喚獣

閃光の伯爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と親友と召喚獣

【Nコード】

N4939V

【作者名】

閃光の伯爵

【あらすじ】

ここ文月学園は、試験召喚システムを使った試験校である。ここで、バカっぱいことをする主人公土方亮介の物語。

予習問題(前書き)

どうも作者です。ノリでかきました。二作目です。できるだけ同時進行します。

予習問題

第0問

僕、土方亮介、高校二年生。 高校生活二度目の春。彼女がいない。
正直募集中。

こんなこと言っているけどそんな暇がない。

今日は、振り分け試験の日。

友達（男）においていかれ、ひとりで道ばたRUNNING NOW
間にあえーと心の中で叫んでいた。

校門前にてつつん じゃなくて鉄人がいた。

鉄「いそがなか！土方。」

鉄人 趣味がトライアスロン、冬でも暑苦しい教師だ。

振り分け試験中。

振り分け試験終了。

結果がくるまで楽しもう春休み。

予習問題（後書き）

次は、オリキャラ紹介です。どうぞよろしくお願いします。

キャラ紹介(前書き)

男三人、女二人。現在はこれですが、追加するかもしれません

キャラ紹介

キャラ紹介

土方亮介

身長 173cm

体重 60kg

学力 cクラス

クラス c

髪色 黒

髪型 ウェーブがかかっている。

目 黒

好物 マヨネーズ

嫌いなもの とうもろこし

性格 優しい・鈍感

顔 松純的な顔

召喚獣 信長の鎧

武器 日本刀

腕輪 武器換え

火縄銃 召喚・発射点消費

大砲 召喚・発射点消費

貧乳好きのセクハラ好き

近藤悦司

身長 雄二ぐらい

体重 雄二ぐらい

髪色 金髪

髪型 明久みたいなやつ

目 赤

学力 aクラス

クラス c

外見 明久と雄二の中間と金髪

召喚獣 仮面ライダーみたいな

武器 なし

腕輪 フォームチェンジ

特撮オタク

沖田漱士郎

身長 明久ぐらい

体重 明久ぐらい

目 黒

髪色 黒

髪型 明久のくせつ毛みたいな

顔 学園一、二を争うイケメン

性格 優しい(主人公以上)学力 Aクラス

クラス A

召喚獣 シルバー ルー式

武器 火 刀銀

腕輪 鬼神切り

30点消費 100ダメージ

学年次席並の頭脳。モン んが大得意。

キャラ紹介（後書き）

次はヒロインの紹介です。

キャラ紹介につ（前書き）

次はヒロイン。近藤・土方と結ばれる（予定）

キャラ紹介につ

キャラ紹介につ

山崎百合

身長 土方より少し小さい。

体重 公開できません

胸 島田、優子クラス

目 緑

髪色 緑

髪型 ツインテール

顔 初音ミクの髪が少し短い感じ

性格 ツンデレ・やさしい？

召喚獣 初音ミクの服装

武器？ ボイス（ラーゼフォンみたいな）

腕輪 戦意を喪失させる（敵味方関係なし）

主人公とはおさなじみで両親公認

嫉妬で明久みたいな感じになる。

クラス C

学力

C

桂麻里

身長 土方ぐらい

体重 公開できません

学力 クラス

クラス

目 黒

髪色 茶髪

髪型 ストレート

胸 霧島より少し大きい

顔 とにかく美人

性格 ヤンデレ

召喚獣 処刑人みたいな格好

武器 スタンガンからギロチンまでいろいろ。(リアルでも)

腕輪 敵を縛る(一人ほ一瞬で)

両親公認の近藤の婚約者。

近藤も麻里のことが好きだが素直になれない。(そのせいで…)この後は後に。

キャラ紹介につ (後書き)

名字を銀魂？にしました。ノリで。次回第一話
メガネとヒステリックとツンデレ

第一問 メガネとヒステリックとツンデレ（前書き）

本編スタート

第一問 メガネとヒステリックとツンデレ

第一問めがねとヒステリックとツンデレ

「おはようございます。鉄村先生。」

「おはようございます西人先生。」

「おはようございます。西村先生。」
ボカッ×2

「痛い！なにするんですか。俺たちはなにもしないじゃないですか。」

「西村先生と呼べ！あとこれを受け取れ。」

「どーもです。」

「ありがとうございます。」「さんきゅ。」

「にしても、沖田と近藤、お前たちどうしたんだ。お前らならアクラスも楽なはずだ。」

「調子がでなくて。」

「遅刻しないように早めに教室に行くように。」

「はい。」

「イエッサー」

土方side

「だれかいるかな？」

「百合あたりならいるんじゃないか？」

「百合？まさつかー、あのバカでペタンコな百合が……」

「どうしたの？」

「逃げるぞ。悦司。そして、亮介さよいら。」

「待ってよ！」

後ろからさつきが

「これから10秒クッキングをスタートします。」

「ぎいあああー」

こうして俺は10秒でレッグボーンクラッシュを受け、保険室へ。

近藤 side

「結構一般的だな。」

「悦司、後ろ向いてごらん？」

といわれふりかえると

第一問 メガネとヒステリックとツンデレ（後書き）

レッグボーンクラッシュは足の骨を砕く勢いで正拳突きをすることです。代表だし忘れました。次、登場予定。
次回遅刻と代表とヤンデレ

第二問 メガネとスタンガンとヤンデレ（前書き）

さて、この後の展開は分かると思いますが、気にせず。

第二問 メガネとスタンガンとヤンデレ

第二問メガネとスタンガンとヤンデレ

悦司 side

いわれてふりむくと、スタンガンを構えた麻里がいた。

「どうした？麻里？そんな物騒な物持って？」

「今朝、一緒に登校してくれなかった。だから、そのう・め・あ・わ・せ」

漱士郎 side

バチツバチバチバチ

「ぐっいやああああー」 悦司の断末魔の叫びをBGMに小山さん入場。

「づらさん、此処はCクラスよ。」

「でも、悦司と一緒に登校してくれなかった。」

「もうすぐHRはじまるわよ。」

「わかった。悦司を保険室まで運んでくる。」

小山さんですごいな。彼氏はひどいけど。

「恭二とならわかれたわよ。」

なぜ、人の心がわかるんだろ？すごいな。

「誉めてくれてありがとう。名前は知っているみたいだけど。君は漱士郎君だよな？」

「なんで知ってるの、と聞きたいがだいたいわかった。」

「なんで、学年次席候補がこのクラスに？」

「友達に頼まれたからだよ。」

「あなたとは上手くいけそうなきがするわ。じゃあね。」と言って席に向かってあるきだしていた。

さて、二人（亮介と悦司大丈夫だろうか？）

第二問 メガネとスタンガンとヤンデレ（後書き）

漱士郎は小山と結ばせようとおもいます。

次回自己紹介と代表とけが人二人

第三問 自己紹介と代表とけが人二人（前書き）

明日は投稿できません。すみません。

第三問 自己紹介と代表とけが人二人

「皆さん席についてください。HRを始めます。私はクラス担任または、英語教師の安藤です。よろしくお願いします。代表の小山さんでできてください。」

「代表の小山です。代表でも好きなようによんでください。」
土方side

「すみませーんおくれちゃいました」「」

「早く席についてください。」

「「はい」」

「では廊下側から自己紹介をおねがいます。」

「榎田克彦……」

自己紹介中 しばらくお待ちください。

「次はぼくだね。」

「僕は、土方亮介。よろしく。」

「貧乳、ツンデレ大好きは言わなくいいの？」

「待つてよ、漱士郎。皆に僕の裏趣味がばれちゃうじゃないか。」

「聞いた、今の。土方君趣味わるいね。」

「でも、好きなんだろ？」

「大好き、いや、愛してる。って悦司！僕もうこれじゃ変態みたいじゃないか。」

「みたいじゃなくてほんものだろ？」

「一年間よろしくおねがいます。」

「次は俺だな。俺は近藤悦司。一年間よろしくな。」

「次はおれか。おれは沖田漱士郎。一年間よろしく。」

「次は私ね。私は山崎百合。よろしくね（キラッ）」

「「百合たん、サイコー」」

第三問 自己紹介と代表とけが人二人（後書き）

主人公かわいそうだ。（笑）

それはともかく

次回 メガネと自己紹介2と代表様

第4問 自己紹介2と代表とお話（前書き）

マクロスネタを使わせてもらいました。たまにこんな感じになると
思います。

第4問 自己紹介2と代表とお話

第4問

土方side

百合教信者急増中

彼奴は渡さない。俺のハーレムの一員にする。己の意志で！

脳内会話をしちいると悦司を助けたらしい小山さんが自己紹介をしていた。

「先ほど話したように名前の呼び方は気にしません。また、恭二とは別れていますので勘違いをしないように。」

「でもさ、別れたなら、どうして下の名前で呼んでいるだろう？」

「確かに。」

「さすが、セクハラ学生伊達じゃない。」

「悦司！やめて、じゃないと麻里さん呼ぶよ。」

「ならこちらはFFF団異端審問会の奴を呼ぶ。」

「すみませんでした。悦司様。」

「今だ！」

「やあめろおおお」

「土方君、近藤君静かにして下さい。」

「すみません。あと、悦司君のお母さんが悦司君の弁当を渡しにくるそうなので席を外させてよろしいですか？」

「いいですが、なるべく早く戻ってくるように。」

アイコンタクト発動

早く逝け悦司。さもなければ…分かったいくからやめてくれ 廊下

悦司side

「私にあいにきてくれたの？」

「あ、ああ。まあな。」

「うれしい」

「今日、一緒に寝よ」

「それは、おかしいだろ！」

教室

「先生、僕の言ったとおりおもしろいでしょう？」

第4問 自己紹介2と代表とお話（後書き）

ベタな会話。二人つきりと思っでないときできない会話ですね。
次回 素直じゃない男とヤンデレと盗聴

第5問 カップルと素直じゃない男と一途な女。(前書き)

祝五話記念一人キャラ追加したいと思います。十話まで受けます。感想も宜しくお願いします。

第5問 カップルと素直じゃない男と一途な女。

第五問

「先生、これは西村鉄人と、異端審問会どちらがいいですか？」

「西村先生に送りましょう。渡してくるので皆さん自習するように。」

「亮君、」

「何かな、百合？」

「私って亮君の好み？」

「どストライク！ゲームセットぐらい。」

「どのくらいかわからないんだけど？」

「メイド服ぐらい。」

「わからない。」

「簡単に言えば、百合が大好きなこと！すういまうったああ！ついノリに乗ってこくってしまったああああ」

「亮君、それほんと？」

（上目遣い）

「じつはね私……」

「「土方をころせええいえいえい」」

「くそつたれの鼻くそに紛れてできた鼻毛以下のムイズインクオどもぐうあー！僕の青春と百合の写真（メイド服版）と心暖まるシーンをかえしやぐうあるうええ！」

「憎しみは不可能も可能にする。喰らえ。俺のこの手が光ってうなる！おまえ等倒し、百合と共に未来を築けと輝き叫ぶううう！愛と怒りと悲しみのマヨニング・ソードブレイカー！」

「ぐはー」x20？

第5問 カップルと素直じゃない男と一途な女。(後書き)

いろいろきましたね。シャイングファイガーソードとか。主人公の発音すごいですよね。自分でもびっくりです。

第六問 天才と代表と自習時間。(前書き)

今回は沖田君と小山さんのお話です。

第六問 天才と代表と自習時間

第六問

沖田 side

「ねえねえ、沖田君。」

「なにかな？代表。」

「優香でいいわよ。」

「用件は？」

「勉強を教えてくださいないかしら？」

「別にいいけど。俺でいいの？」

「あなただからよ。」

「優香さん、あまりベタな発言はよしてくれませんか？」「呼び捨てでいいわよ。それとも私が嫌い？」（涙目＋上目遣い）

「」「沖田をくうおろおうせいー」「」

「復活早いよ！」

「俺達から百合さんと優香様を奪ったら、現実逃避をしてしまう。」

「」

「待てい、ほかのクラスの女子やこのクラスにも女子がいるから！だから、あきらめろ。」

「代表！男子が沖田君の言うこと聞きません！」

「なら西村先生を呼んでちょうだい。」

「代表！女子が鬼畜鬼畜とうるさいです。」

「待てい！自由に勝手に話すんじゃない！貧乳巨乳シンデレヤンデレ交互にならべー！」

「代表！巨乳が若干貧乳より多いです！」

「そう。分かったわ！巨乳貧乳巨乳巨乳貧乳巨乳貧乳よ！」

「巨乳貧乳巨乳貧乳巨乳巨乳貧乳ですわ！」

「違つわよ！よく聞きなさいこつやって並ぶのよ！」

第六問 天才と代表と自習時間。(後書き)

いい雰囲気ブチ壊してすみません。下ネタいり男女いれてしまいません。見たくない方は一話とばしておねがいます。理由はちゅうとはんぱだから。次からは土方君も入ります。次回。ピンクな空気とカップルと男女

第七問 ピンクな空気とカップルと男女。(前書き)

キャラがとつくに崩壊してます。新キャラが出るかもしれません

第七問 ピンクな空気とカップルと男女。

第七問

代表と土方と沖田がノリで男女してるとき、

no side

「すみませーん。遅れちゃいました」

「貴方は？」

「転入生の神楽香奈です。よろしく！」

「なんでお前が此処にいるんだ？」

「転入してきたんだよ。亮君に会いたくてたまらなかつたんだから
！」

香奈 side

「とりあえず、みんな、席について。転入生がきたから。」

「私は、土方香奈です。旧姓は、神楽です。土方君の妻です。夫と
一緒に宜しくおねがいます。」

「……土方を殺せええ……」

「亮君の敵は私の敵。アウェイクン！崩天牙戟」

と香奈が叫ぶと呂布 先が持ってそうな武器がでてくる。

「旋風、だーい裂傷！」

呂布トー ギス？みたいな技を使い男子生徒二十人ぐらいの山がで
きました。

「ウルトラ上手に殺れました！」（モンハンの肉焼きより。）

「香奈落ち着け！さっきあいつ等逝ったばかりだったんだよ。」

「それはごめんなさい。」

少し顔がくらくらする。そして、

「なら、逝っちまいな！」（アリー・アル・サーシエス様の名台詞。
）

「香奈が暴走してしまった」

第七問 ピンクな空気とカップルと男女。(後書き)

新キャラ登場。詳細は後ほどに。

次回呂 と暴走と処刑

第八問 呂 と暴走と処刑。(前書き)

なんか、いろいろなアニメから台詞をとらせていただいています。

第八問 呂 と暴走と処刑。

第八問

土方 side

みなさんこんにちは、土方です。知り合いが暴走してます。マジでやばいです。

ほんとに「ところが、ギッチョン！」やばいです。止めにいつてきます。

「やめろ、香奈！」

「亮君、無事だったんだ。よかったー」

といって可愛い笑顔をみせる。このままでいたいなーじゃなくて、

「香奈、あれじゃクラスメイトの顔がお茶の間に写せないじゃないか！」

「ごめんなさい。でも、まっ、いつか。」

「よくないよ。」

「皆さん席についてください。」

待てい、どういつタイミングだよこんちきしょう。

「土方さん、自己紹介はしましたか？」

「はい！」

「待てい、先生、香奈の名字は神楽だ！勝手に入籍させるんじゃない。」

「それでは、設備の確認をします。何か不備がある人。」
「そこで無視はひどくないか？」

「亮くん？向こうで O H A N A S I しない？」

やばい、この人やれる。

当たらなければどうということはないだとよけられないか…

「ゴオツド、ハアンド、ブ레이크、デルター！」

「ぐわああああー！」

「土方君、静かにしてください。」
「はあ、死ぬかと思った！っておい亮介てめえ、両手に花か。面白
いからいつか？」

第八問 呂 と暴走と処刑。 (後書き)

新ヒロインの覚醒版がすごい！ (書いた自分でも思う)
感想、お待ちしています。

第9問 一途な人とツンデレと両手に花。(前書き)

ほんと、両手に花など、現実では、見れませんよね。
第9問スタート

第9問 一途な人とツンデレと両手に花。

第9問

土方 side

「そつか。香奈は知らなかったね。百合自己紹介したら。」

「私は山崎百合。亮君の恋人です。よろしく。」

あれ、おかしい気がする。

「恋人？友達じゃないの？」「告白したんだから、責任とりなさいよ。」

「なんどうわつてえええ。僕でいいの？僕は、メガネだよ？」

「優しいからいいの。それに私だって好きなんだし。」

「香奈、これドッキリだよ。百合がこんなに優s」

「アウェイクン！スタンガン」

とってスタンガンを取り出す。だすのは召喚獣だけでいい気がする。人のこと言えないけど

「ライトニングブラスター」

「ぐるほおおおお」

僕は意識を手放した。

香奈 side

「アウェイクン！バスターソード（FF7）。」

剣を構える。

「アウェイクン！鬼神斬破刀^{モンハン}」

亮君を守るために私は戦う。切りかかるうとしたとき、亮君が起き二人の刃に斬られる「ぐうふうああああ！刃物二つの鋭い痛みと雷の精神的攻撃がとても痛いー！ー！」

「「ごめんね。亮君」「」

「「亮介、助けてくれー！」「」

「待ってて、たぶん逝くから」

「「たぶんってなんだよ。というより助けるよー！」「」

第9問 一途な人とツンデレと両手に花。(後書き)

亮介君達は残酷ゆえに御見せできません。はたして、三人の運命とは？

次回 漱士郎と代表と代表の話

第10問 漱士郎と代表と代表の話。(前書き)

新キャラだす予定です。男ですが、あと一人ぐらいだしたあと紹介
します。

第10問 漱士郎と代表と代表の話。

第十問

漱士郎 side

「じゃ、いつてくるね。」

「いつてらっしゃい。逝ってこないでね。」

「覚悟しておきなさい。」

「ある程度までは言うこと聞きますので。どうか。」

数分後

「みんな、私は遅くても二週間ないにBクラスと戦争しようとおもってるの。」

「すみません。遅れちゃいました。」

「早く座りなさい、屑！」

「初対面の人を罵倒するなんて、さすが漱士郎がすきそうなだけあるな。名前は高杉優樹。異名はマッドサイエンティスト、墮天使、死神などいろいろある。」

「「優樹、どうしたんだい？」」

「呼び出しといてそれはないだろ。転入はついでだが。」

「亮介、性転換薬とだ。」

「ありがとう、優樹。やっぱり類は友を本当によぶんだね。」

「さて、今のはおかしいだろ。そのツイントール。亮介の本当の趣味はエロイ感じの奴だからな。そんなんじゃ、香奈には勝てない。受け取れ。発育薬だ。親の許可を得て使ったほうがいいぞ。」

「なんでよ。」

「暴走するからだ。」

「どんな風に？」

「それは楽しみにしておけ。」

「このマッドサイエンティストぐわあああ」

「狙い撃つぜ！」

「優樹、どこからそんなものを？」
愉快？な人登場

第10問 漱士郎と代表と代表の話。(後書き)

高杉君登場。名前にあってない気がすると思いますがよろしく願
いします。

次回 秀吉と土方とマッドサイエンティスト

第11問 秀吉と土方とマッドサイエンティスト。(前書き)

秀吉は性転換するでしょうか。スタート

第11問 秀吉と土方とマッドサイエンティスト。

第11問

漱士郎 side

何か亮介に撃ち込まれたみたいだ。いたくないけど、眠い。

「実験成功。悦司、自白剤と変身ベルト。」

なんで自白剤？

「俺に何かないの優樹？」

「ああ、狩人の腕輪だろ、ちゃんとある」

「さんきゅ、優樹。」

「作ってほしいものがあつたら言ってくれ。できればつくる。」

「亮介に性転換薬を渡した理由でも教えておくか。これは、亮介と仲がいい奴のみ知っている。簡単に言えば、お互い、愛してたんだ。しかし、壁があつたんだ。性別という壁が。それを克服するためのためだ。」

「起きろ、亮介。起きないなら、狙い撃つ」

「覚醒弾という弾だ。先生に頼まれたんだ。」

「僕は、一体？そうだ、秀吉に会いに行かなくちゃ。行こう優樹。」

「ああ。理由は説明しておいた。」

「だが、香奈達はどうなるんだ？」

「行こう。」

「ちよつくら行ってくる。」

Fクラス

「秀吉いるかな？」

「久しぶりじゃのう。ところで、何かようかのう？」

「実は、秀吉にこれを飲んで欲しいんだ。」

「これは何じゃ？」

「性転換薬だよ。優樹が作った。僕たちの愛のために。そして、僕と付き合ってくれないかな？」

第11問 秀吉と土方とマッドサイエンティスト。(後書き)

秀吉の決断とは。

次回 性転換と恋人と嫉妬

第12問 性転換と秀吉と嫉妬。(前書き)

できれば、五話間隔でキャラを増やそうと思っています。

第12問 性転換と秀吉と嫉妬

第12問

土方side

「亮介、今なんと言ったのかの？」

「それを飲めば女になれる。」

「「「なんだつとうええええ」「」」

「今も愛してくれているなら付き合ってくれ！」

「副作用は何もないのじゃな？」

「ああ、実験済みだ。」

「実験台にしたの、誰なの優樹？」

「落ちてる食パン食べようとした奴にパンにまぜながら。投与した。」

「きゃああああ！」

悲鳴が聞こえる。まさか、

「女になっちゃつとうあああああ！」

「優樹、ぼくに何をした」「秀吉の愛のために実験台になってもらった。おい、みんな、彼奴は元明久だ。今から女子だ。付き合い
たい奴は付き合え！」

「「「「イエス、ユア、マジエステイ！」「」」」コードギアスの皇帝に対する挨拶。

「吉井さんは僕がいたたく！」

「リボンス・アルマーク生きて…、じゃなくて、学年次席なぜ貴様が此処にいる！」

「吉井さんいるところに僕ありさ。」

「ところが、ギッチョン！」「ぐわあああああ」

「Nバスターソードはよく切れるな」

久保君、ドンマイ。

「第一回吉井争奪セー」

第12問 性転換と秀吉と嫉妬 (後書き)

明久まで女に。

次回 秀吉と土方とラブラブデート

第13問 秀吉と土方とヲヲヲヲデート。(前書き)

よく字を間違ってると思います。すみません。

第13問 秀吉と土方とラブラブデート。

第13問

土方 side

「早く、おわらないかな？」

「終わるわけないだろ。それより、亮介責任取れ。」

「何が、悦司？」

「お前のせいでおれは、麻里と同棲するはめになった。」

「みんな、よく聞いてくれ、近藤悦司が麻里さんと同棲してることを自白したぞ。」

「近藤を殺すうえいー！」

「おおー」×ほとんどのメンバー + 船越先生

「僕は秀吉とどこか、遊び行こう。」

Fクラス

「何があつたんだ？」

「えっとね、亮君。」

「秀吉どうしたの？口調がいつもと違うよ。」

「私は今女だから。今の私、嫌いななの？」

「大好きさ！」

「じゃっ行こ」

市街

「どこいく？秀吉？」

「映画を見に行こ。」

「ああ。行こう。」

映画館につくとありえない光景が見られた。

第13問 秀吉と土方とラブラブデート。(後書き)

想像がつくと思いますが、お楽しみに。

次回 僕と映画と黙字録

第14問 映画とデートと黙時録。(前書き)

次回新キャラ登場の予定。

第14問 映画とデートと黙時録。

第14問

土方 side

二人の男性が二人の女性に手錠を付けられひっぱられていた。

「悦司（雄二）何が見たい？」

「俺の願いは叶うのか？叶うなら自由をくれ！」

「地獄の黙時録を二回見る。」

「お前とは旨くいけそうなきがするぜ。それにしても、二回も見なくていいだろ。しかも長いな、オイ！」

「クラスが違うから、その分のう・め・あ・わ・せ」

「土方、秀吉、助けてくれ！」

「逃がさない。」

「ぐっほああああああ」

ありゃ、殴られた鈍い痛みとスタンガンの新感覚ーと僕ならいったはずだ。

「秀吉、何見たい？」

「亮君と一緒にいれるなら、何でもいい。」

「これでいいかな？」

選んだのは、愛は無限に、という映画にした。理由？理由は、参考になりそうなきがするから。

「早く行こ、秀吉。」

「うん」

「映画が始まった」

しばらくお待ちください。

「泣けたね、秀吉」

「うん。ちよっとまってくれない。お母さんに電話するから。」

電話中

「亮君、泊めてくれない？」

—なんです

第14問 映画とデートと黙時録。(後書き)

次に新キャラがでる気配がありません。

次回 秀吉と亮介と同棲

第15問 秀吉と亮介と男女同じ屋根の下。(前書き)

次の日(小説で)になったら新キャラ行こうと思います。

第15問 秀吉と亮介と男女同じ屋根の下。

第15問

土方side

落ち着け。状況を振り返ろう。

- 1、デートの帰り
- 2、秀吉が家に電話
- 3、泊まっつていいか聞かれる。
- 4、同じ空間で、夜を過ごす
- 5、次の日、処刑執行
とても危険だ。

「はやくいこ、亮君。」

「待つてくれないか。明日になったら死ぬかもしれない。」

「私が嫌いなのか？」（涙目＋上目遣い＋密着）

ピンチ、ピンチ。何がピンチかってもちろす、理性と命。

「たぶん、いいが、どこで寝るんだ？」

「何言つてるの？もちろん、同じベットだよ。」

「悪いが、部屋を片づけさせてくれないか？」

「Hな本があるから？大丈夫。怒らないよ。」

「本当に？」

「燃やすだけで許してあげる」（キラッ）

絶対許してないと思う。

「許してなかったら、即病院送りだよ。」

「すみませんしたー。調子こいてました！前言撤回。かなり許される。」

「分かった。だが、服はどうする？」

「亮君の奴を使うから、問題ない。」

話していたら着いてしまった。

第15問 秀吉と亮介と男女同じ屋根の下。(後書き)

いえにつきました。中がどうなってるか、自分も考えていません。
次回 土方家とHな本と秀吉

第16問 土方家とHな本と秀吉。(前書き)

すみません。結構誤字脱字がありますがご了承ください。
8月13日は、お盆関係でできませんでした。

第16問 土方家とHな本と秀吉。

第16問

土方 side

ああ、かなえ、鈴木、岩本、その他いろいろ（エロ本の名前）ごめんなさい。君たちを守れなくて、君たちの犠牲は無駄にしない（はず）。

「どうしたの、亮君？」

「脳内でお別れ会をしてたんだよ。」

すういつとうああああ！なんて悲しいんだ。僕は、僕は、ぼくは、生きてゆけるのかなー？

「とりあえず、あがつてよ。」

「ありがとう」「ニコッ」

これどうあよ。（これだよ）この天使のような微笑み、サイコー！
「なにする？」

「家庭について話し合う。」

「会話が飛びすぎだ！」

「え？」

「え？じゃないよ。野球拳でもする？」

すういまっとうあああああ！いつも泊まるの男子だからノリでいっ
てすういまっとうあああああ！

「悦司とは、どんな関係なの？私じゃ不満なの？」

「悦司とは悪友で秀吉はとても大事さ。」

「どのくらい？」

「平和くらい。」

「ありがとう。ところで一緒に風呂に入らない？」

ぶしゅああああああああ

大量出血で病院送りになる気がする。

第16問 土方家とHな本と秀吉。(後書き)

僕と翼と召還獣、好評？連載中。よろしく願いします。感想、アンケートもお待ちしております。

それはともかく、次回 亮介と秀吉と一つのベッド

第17問 亮介と秀吉とペッド。(前書き)

17問スタート!

第17問 亮介と秀吉とベッド。

第17問

秀吉 side

しまったのじゃ。一割冗談だったのに。

「とりあえず、亮君の体が冷えないように暖めよ。」

服を脱いで亮君にベッドの中で密着すれば問題ないしね。

数十分後

土方 side

体がとても暖かいな。まるで、秀吉の体と密着してるような。いや、そんなことは無い。あっても膝枕ぐらいだ。どっちでもとても嬉しいからいいけど。とりあえず目を開けよう。

開けると、下着姿の秀吉が密着していた。

「ヘルプミー！マイエンジェル！」

「襲えばいいんじゃない？」

天使の皮をかぶった悪魔め！

秀吉が目を覚ました。

「いつの間に私が寝てたんだ。あっ、亮君おはよう。」

「おはようどころじゃないよ。まだ夜だし、というより、なんでそんな格好してるの？風呂入ってきなよ。」

「一緒に？」

「おまえがいいならいいが。」

「本当！やったー」

無邪気に喜んでる。これって犯罪じゃないよね？

「じゃ、先にいってて。準備してくるから。」

もし、あそこで断ったら、プツツみたいに骨が折れるだろう。

なんか死にそうで怖い。肉体的にも、精神的にも。

第17問 亮介と秀吉とベッド。(後書き)

ノリで書きましたが、これより先を書いていいか分かりません。なのでアンケートを取ろうと思います。はいかいいえでOKです。8月15日11時、つまり二日待ちます。それまで更新しません。ご理解ください。感想待ってます。

次回 亮介と秀吉と風呂

第18問 亮介と秀吉と風号。(前書き)

ちよつと危ない話ですが御理解を所望します。

第18問 亮介と秀吉と風呂。

第18問

土方side

高校生男女カップルが一緒に風呂。これってあり？

ないに決まっている。まっいつか。

「亮君、一緒に入るんじゃないの？」

「待って、すぐ行く。」

あつちはやる気まんまんみたいだな。性犯罪者扱い受けそうだ。

「秀吉、お待たせ。」

ぶふあああああああ！

女子ってタオル巻いてはいるんじゃないの？

「亮君の体洗ってあげる。」

「ありがと。」

むにゅっ

あれ、何の音だろう？わかった！。

「待って秀吉タオルを使わないでどうやって洗う気なんだ？」

「私の体を使って。」

入浴中 (これより先を書く大変なことになりそうなので省略

します。)

「秀吉、寝よっか。」

「一緒のベットで。」

「やっぱりそうなるの？」

僕の理性が持ちますように。

「おやすみ。」

とりあえず寝た。襲う行為をしないためにも。

第18問 亮介と秀吉と風号。(後書き)

とても危なかつた気がします。15禁が18禁になるところでした。
次回 亮介と秀吉と朝

第19問 亮介と秀吉と朝。(前書き)

朝物語です。

第19問 亮介と秀吉と朝。

第19問

土方side

朝食の準備をしないと。朝食準備中

「よし秀吉、起きないと。学校だよ。」

「きゃっ、亮君たら何処さわってるの。そこはだめ！」

「どんな夢見てるんだろう？なんかリアルになりそうな。秀吉、おはよう。」

「おはよう、亮君。」

「朝食準備してるから、準備が終わったら来てよ。」

「分かったわ。」

リビング

「すごいな、性転換薬が話題になってる。」

「明久も女子だよね？」

「たぶん、明子になると思うけど。」

「優樹に感謝しないとね。」

しばらく続く

「そろそろ行こうよ。亮君。」

「うん、行こう。」

通学路

「土方をくうおろすうえー！」

「いくよ、秀吉。あと失礼するよ。」

秀吉をお姫様だっこ状態にして走る。

無事学校に着けました。

第19問 亮介と秀吉と朝 (後書き)

次回学校でのお話。

次回転校生と戦争と代表

第20問 亮介と秀吉と鉄人。(前書き)

西村先生のお話、スタート

第20問 亮介と秀吉と鉄人。

第二十問

土方side

「チヨリッスー！西村先生。」

「おはようと言いたいところだが、朝何が起きた？俺の予想ではお前が木下と一緒に風呂に入ったり、一緒に寝たり、いちゃつきながら登校してたのをFクラスのバカに襲われて逃げてきたあたりか？」

「なんでそれを？」

「予想のつもりだったが本当だったとはな。授業に支障がでなければ俺は何も言わない。」

「貴方は秀吉の親ですか！」

「違うよ、僕はつつこんでないよ。」

「おはようございます、螺群専制。」

「高杉、間違ってるぞ。」

「先生、いいじゃないですか。」

「よくないぞ、というより邪魔をするなあああ！」

どうしてだろう機動 土 ガダム スターダ トメモリーのアナ
ル ガ ー少佐の声が聞こえる。

「やはり、あんたがソ モンの悪夢か。実在したとはな。」

「ええ！あの人、逝っちまいな、ガナムのノリで自滅したはずだ
けど。」

「お前等、後で職員室に来い。」

「気持ちだけで十分です。」

「否、断じて否！」

「わかったから、アトミックズーカ並の痛い思いしなくなかった
ら早く教室に逝け！」

「漢字が違うよ！」

とりあえず教室に行った。

第20問 亮介と秀吉と鉄人。(後書き)

ガトー少佐登場。あれって思う人多いと思う方がいると思いますが眉毛とかは色を除けば似てると思います。あのノイエ・ールの特攻の時、脱出したとでも御考えください。後書きが異常に長かったです、次回予告

次回転校生と代表と挑発

第21問 転校生と代表と挑発。(前書き)

新キャラ登場。宣伝ですが僕と翼と召還獣もよろしくお願いします。

第21問 転校生と代表と挑発。

第21問

土方side

秀吉を送り届けた後、自分の机で考えてた。ジョン再興なんてリアルな話だったんだ。

「みなさん、HRを始める前に転入生を紹介します。坂田君来てください。」

「坂田和希です。よろしくお願いします。ちなみに土方亮介君は木下秀吉という人と一緒に風呂に入ったりしてたそうです。」

「「土方を殺すウエエ！」」

「だまりなさい！この堆肥を全身につけた豚ども！」

「おい、秀吉。何してるんだ？」

「亮君、えつとねCクラスを挑発させてAクラスと試召戦争を起こさせようとしたの。」

「えらいぞ、秀吉。」

「亮君のためなら国の法律だってかえてみせるよ。」

「墮天使様、僕の天使に何を吹き込んだ？」

「確か、お前が子供を欲しがってるとか、エロ本の隠し場所を教えたりしただけだが？」

「だけですまないと思うよ。というより場所を言ってみなよ。」

「ベッドの下にある隠し扉を引き出しの一番下の二重底の中に鍵があり、下からボールペンの芯か何かで下からあけないとこの町全体が燃える程のガソリンの上に鍵があり、隠し扉を開け、その先の12桁のパスワードを入力したのちに、あいつの部屋の合い鍵でその先の部屋にエロ本が星の数だけある」

第21問 転校生と代表と挑発。(後書き)

レスノートのネタを使いました。気にしないでください。土方の未来は？

次回 僕と秘密と嫉妬

第22問 僕と秘密とエロ本。(前書き)

サブタイトルは変えさせて頂きました。

第22問 僕と秘密と工口本。

第22問

土方 side

「僕のつるとらはいめがでんじやらすぎがはいばーしーくれつとぐ
うわああああああ！」

「長いぞ亮介。」

「どのくらいなのかが分からないが？」

「せめてちゃんとカタカナにして来い。」

「なぜ変な単語が混ざってるんだ？」

「変態だから？」

上から高杉、沖田、近藤

、坂田、小山ヒステリック友香さんの順に突っ込んでくる。

「土方遊びにいつていいか？」近藤、沖田、高杉、坂田以外の男子
の声

「土方くうーん、ちょおつとくうおつちにいらっしゅあい。」

「僕が一体何をしたと？」

「秀吉というフィアンセがいながら、さっき代表さんのスカートを
めくったから。」

「亮君？私じゃ不満なの？あんなことまでしながら。」

「秀吉、待って、僕何かしたかな？」

「何色だった？」

「白。」

「即答はやめろ。もう否定できそうにない。」

「何で？」

「代表さんが驚いた顔してるから。」

「女子のみなさん、しばらく廊下にいることをおすすめます。」

おつ漱士郎のエスコート。そして優樹に交代。

「血や骨、最悪、臓器や脳が出てくるので」

「墮天使―、漱土郎の華麗なるエスコートの後にそんなこと言わないでよ。」
優樹の発言は酷いと思う。

第22問 僕と秘密と工口本。(後書き)

土方の運命はどうなるか。
次回 虐殺と処刑と鉄人

第23問 虐殺と処刑と鉄人。（前書き）

すみません。最近少し忙しいので更新のスピードが落ちる可能性があります。ありがとうございます。

第23問 虐殺と処刑と鉄人。

第23問

高杉 side

亮介 処刑中 しばらくお待ちください。

「すつきりしたなー。」

「酷いよ、優樹、何が三分クッキングだよ、1分52秒だったじゃないか。」

「気にしたら負けだ。ところで生きていたのか？」

「もちろん、秀吉が居る限り死なない体質でね。」

「貴様は歪んでいる！」

「和希か、今のは。」

「その歪みこの俺が断ち切る！」

「やはり君とは運命の赤い糸で結ばれているようだ。」
「きもいな、処刑しようか。」

「斬り捨てーごめーん！」

「やめる、高杉。」

「ソロモンの悪夢、邪魔しないでくれないか。」

「やるなら一斉に殺るべきだ。」

「とりあえずバスターソードでいくか。」アルケー版

「遣られるか、僕は秀吉と未来を切り開くんだ。」

「怠けるなといったはずだー！」

「先生、とりあえず落ち着いてください。」

「すまん。つい昔の癖が発動してしまっ」

「みんな、聞いて頂戴。私は今からBクラスかFクラスに試召戦争をしようと思うの。」

「理由は何だ？」

「今とてもいらついでいて地獄の底にたたきつきたいからよ。Bクラスは女装趣味の変態、Fクラスは私達を挑発した仕返しをしたい

「思っているの。みんなの意見を聞かせて。」

第23問 虐殺と処刑と鉄人。(後書き)

試召戦争編？スタートの予定です。
次回代表と選択と戦争

第24問 BクラスとFクラスと試召戦争。(前書き)

えっと、最近は百合と香奈の出番がないですね。できれば出そうと思います。百合と香奈は最初はメインヒロインだったのに最近はお番ないという悲しい始末。

第24問 BクラスとFクラスと試召戦争。

第24問

土方 side

「どうしようかなー？秀吉と戦いたくないし、根本君は汚いしなー。」

「友香、Fクラスの時には条件がある。設備交換以外に幾つか願い事を聞いてもらえばいい。」

「でも、何するつもり？」

「敵代表を土下座させた後に学年主席に引き渡し、メンバーを数名貰う。まあ、こんな感じだ。」

「なんで主席に渡す必要があるの？」

「それについては俺が。雄二の妻、つまり主席の霧島はヤンデレで雄二を愛してるからだ。」

「スタンガン常備、手を繋ぐこととサブミッションは同じと考えているらしい。」

「待って、みんな。」

「どうした？」

「敵代表が根本にしたやつをさせたいんだけど。」

「お前、鬼畜だな、おい。」

「墮天使の君に言われたくないよ。」

「とりあえず、坂本の首を採るわよ！」

「了解！」

「じゃあ、土方君、宣戦布告お願いね。」

「今すぐから始めるからきをつけてね。」

Fクラス教室

「我々CクラスはFクラスに戦争を申し込みます。」

「何ーーーーー！！！！」

Let's party yeah

第24問 BクラスとFクラスと試召戦争。(後書き)

次回鉄人と補修と二宮金次郎

第25問 鉄人と補修と二宮金次郎。(前書き)

試召戦争スタート

第25問 鉄人と補修と二宮金次郎。

第25問

高杉 side

「まず、教室まで押し込むのよ。」

「姫路さんの相手は漱士郎君お願いね。」

「分かったよ、友香。」

「その後は俺にまかせてくれないか？」

「分かったわ、お願いね。」

「悦司、お前は俺の護衛だ。みんな手を貸してくれ。報酬は明久の女版、じゃなくアキチャンと呼ばれる奴を遣ろう。」

「『イエスユアハインス』」

廊下

土方 side

「秀吉の為にも負けるわけにはいかないんだー！」

「吉井さん、貴方は女子ですよ。というより、貴方やムツツリーニあたりは頂こうとしただけなんだ。」

「姫路さんは？」

「悪いが坂本は無理だよ。」

「何で？」

「彼奴は妻と団らんの時間があるから女装させて写真を撮って、渡すからだよ。」

「分かったよ、私も協力します。」

「ありがとうございます。」

「大丈夫か亮介？」

「優樹、やったよ、吉井を味方にできたよ。」

「すまない、吉井、この変態が迷惑かけたたる？」

「いえいえ、そんな、それより……」

第25問 鉄人と補修と二宮金次郎。 (後書き)

明久が仲間になりました。

次回 裏切りと戦争と戦後対談

第26問 裏切りと戦争と戦後対談。(前書き)

先日は投稿できずすみません。今回はFクラス戦集結の予定です。

第26問 裏切りと戦争と戦後対談。

第26問

明久side

「それより高杉君、元に戻してくれない？」

「優樹でいいぞ、そして、断固辞退する。」

「待つて、戻す方法はないの？」

「それよりアキちゃん、まず首を採りに。」

「そのとおりだね。」

「こちらに女神が微笑んだ！一気に終わらせる！」

Fクラス

「雄二、明久が謀反を。」

「明久が？」

「伝令、敵は……」

「どうした？」

「そいつは補修送りだ。」

「何者だ！」

テテテ テテ テテテテテ テレレ テレ テテレツテレ (BGM

UNION)

「グラハ…といきたいが高杉優樹だ。」

「あの黒武者か。」

「高杉優樹は坂本雄二に古典の勝負を所望する。」

戦闘シーン 省略します。

「斬り捨てー、ごめーん！」

「勝者Cクラス」

「明久、どうして裏切った！」

「一部の生徒をクラスの設備に連れていってけると約束してくれたから。」

「何だって!」

「しかも根本達を送りつけたあげくに雄一の女装な見たくないから。」

「俺に何が起きるんだ？」

第26問 裏切りと戦争と戦後対談。(後書き)

グラハム風にしてみました。それはどうでもいいとして
次回 女装と写真と戦後対談

第27問 女装と写真と戦後対談。(前書き)

最近、両立が難しくなっています。

第27問 女装と写真と戦後対談。

第27問

高杉 side

「さあ、代表様、戦後対談といきますか。関係者以外でいくことをすすめます。地獄絵図を見ますよ。」

「喧嘩で俺に勝てるわけないだろ。」

「喧嘩はするが待っててくれ。」

「もしもし、学年主席様でしょうか？坂本雄二君が吉井秋子さんの胸を触っています。以上、旧校舎からでしたー。」

「やめてくれ、頼む。」

「断固辞退する。」

「雄二、浮気するなんて万死に値する。」

「お仕置きなら後にしてくれないか？雄二の写真集をつくるから、主席様は彼の妻だから無料にしとくよ。」

「ありがとう、土方はいい人。あと、霧島でいい。」

「土方、秀吉とデートでも逝ってこい、地獄を見るから。」

「分かったよ、行くよ秀吉。」

「うん。」

side out

土方 side

「秀吉の家についていいかな？」

「ダメ、絶対に。」

「子供の名前を秀吉の部屋で考えよう。」

「うん。」

あれ、さっきダメって言ったよね。

「じゃあ、行こうか。」

移動中

木下家

「お邪魔します。」

「あら、どちら様でしょうか？」

「秀吉の彼女をしている土方亮介です。」

「あら、土方君？懐かしいわね。まあ上がりなさい。」

「はい、お言葉に甘えて。」

第27問 女装と写真と戦後対談。(後書き)

感想よろしくお願いします。

第28問 土方と木下家。(前書き)

何日更新してないか自分でも分かりません。

第28問 土方と木下家。

第28問

高杉side

「あのババアの許可が無いとそんなこと出来ないさ。」

「許可は取ってある、気にするな、それより忠志、撮影と着替えを。」

「

「こんなゴリラなんて相手にシタクナイ、時間の無駄。」

「えつしー、よろしく、明日見せてくれ。」

「ああ、期待してくれ。」

「何から着せますか？奥さん？」

「えつと…」

やばいな、急がんと死人が出る。

土方side

木下家

「亮介くん久しぶりー、元気？」

「秀吉のお陰で元気です。」

「それはよかつたわ、結婚式、何処で挙げる？」

「ダメだよ、お義母さんとお義父さんが来てないんだから。」

「待つてください、何か飛びすぎてます。」

「何時になったら亮君はお義母さんと呼んでくれるの？」

「結婚を前提に付き合ってるのに何故、結婚の後についていわれる

んだろ。」

「え！違うの？」

この人マジやばい、昔から変わってないな。

「お義母さんはハワイがいいな。」

「違いますって、それは僕が18歳になったらの話です。」

「亮介君はそんなにHなこと好きなんだ！」

「違いますって、秀吉に呼ばれたからです。」

「秀吉、誰か来てるの？」
「あら、土方君じゃない。」

第28問 土方と木下家。(後書き)

木下優子登場。雄二達については書いたら、雄二や読者の皆様が嘔吐の恐れがあるので省略しようと思います。

第29問 亮介と秀吉と優子。(前書き)

木下家編スタート

第29問 亮介と秀吉と優子。

第29問

土方side

「あら、土方君じゃない。」

「あれ、昔みたいに亮君って呼んでくれないの？優ちゃん。」

「その呼び方やめてくれないかしら、そしてこういう時だけ亮君と呼ぶわ。」

「なんて呼べばいいのかな？腐女子？」

「なんで亮君がしってるの？」

「昔からの付き合いじゃないか。」

「なら、亮君はロリコンね。」

「なぜそれを？」

「亮君と理由は一緒。」

「優子、結婚式どこがいいかしら？」

「秀吉、お姉ちゃんはヨーロッパがいいな。」

「亮君、お義父さんとお義母さんと呼んで。」

「家族面談ならあたしは邪魔ね。」

「優ちゃんもいていいよ。というよりいるかな？」

両親に電話中

「さて、お父さんと呼ばなくちゃね。」

「子供の名前どうするの？」

「さらに発展しちゃってる。」

「まって母さん、子づくりどころかキスすらしてないんだけど。」

「よくいうな。一緒に寝ようとしてたり、一緒に風呂に入ろうとしたのにな。」

「「ええ、そこまでいつちゃってるの？」」

親子で一文字違いなく驚いてる。

「そこまでってどこまでですか？」

ピンポーン

インターホン？の音

「どちら様でしょうか？」

「私は土方直人、こちらが妻の土方遙です。」

第29問 亮介と秀吉と優子。(後書き)

土方夫妻、といっても亮介の親ですが。

木下家編第三話、お楽しみにしてくれるとありがたいです。

第30問 亮介と両親と家族面談。(前書き)

昨日は投稿できずすみませんでした。

第30問 亮介と両親と家族面談。

第三十問

土方 side

「父さん、母さん、来たの？」

「いやー女の子の声が沢山聞こえてくるから亮君が彼女選びに困ってるか、子供を作ろうとしてるかどっちかと思うがな。」

「待ってね父さん、それじゃ僕が変態みたいじゃないか。」

「おや、そうなのか？」

「あら、意外だわー。」

「それが実の息子にいう台詞か。」

「そうですねよ、お義父さん、お義母さん。亮君は早く大人の階段を登りたがってるだけなんです。」

「あら、秀吉ちゃんと優子ちゃんじゃない。」

「お久しぶりです。」

「秀吉、それじゃ僕が変態だって所を否定してないじゃないか。」

「「「「亮君、よく気づいたね、すごいよ。「「「「「

この場にいる全員からいわれると説得力がありすぎて困るんですけど

「まあ、上がってください。」

「すみません、」

「とりあえず、式場について話し合いますよ。」

「まっってくださいよ、いろいろ飛びすぎでしょ。」

「「「「どこが？」

何故、おかしいのに気がつかない、おかしすぎる、ここは優ちゃんに。

ダメだ、優ちゃんはアイコンタクトで無理と返してきた。

「ああ、お父さんがいないからか。」

「「「「ああ。」

納得するのはおかしいよ。

第30問 亮介と両親と家族面談。(後書き)

土方夫妻については紹介抜きで行こうと思います。

第31問 木下夫妻と土方夫妻と婚約（前書き）

今回はギャグ少なめだと思います。だからといって、シリアスな話でもありません。

第31問 木下夫妻と土方夫妻と婚約

第31問

土方 side

「ただいま、おや、客が来てるのか？」

「お父さんが帰ってきたよ。」

「お父さん、早くしてください。大事な話があるので。」

「大事な話？おや、亮介君かね？後ろにいる二人は亮介君の親でしょうか？」

「土方直人です。そして、妻の遙です。」

「まさか、婚約の話なのか？だが、秀吉は男だ。」

「何いつてるんですか？秀吉は今は立派な女の子ですよ。昨日、メルで言ったじゃないですか。」

「亮介君、秀吉をどうか、よろしく頼む。」

「何なのこれ、結婚にハイスピードで走っているんですけど。」

「式は何処がいいですかね？お父さん。」

「待て、京子、とりあえず飲むぞ。亮介君も飲み、今日は秀吉に婚約者ができたんだ。京子、赤飯だ！」

「どうしよう、止められない」

なら、優ちゃんに…

ダメだ秀吉に間接技を決めようとしている。

「待って、優ちゃん。それは危ないから。」

「分かったわ。」

「ところで秀吉のお父さんの名前は？」

「今日からお義父さんと呼ぶから言う必要がないと思うが、私は木下醍醐だ。」

「まさか、平安時代から生きてるんでしょうか？」

「そんな訳ないじゃないか。」

第31問 木下夫妻と土方夫妻と婚約（後書き）

木下夫妻については由来はありません。変換任せです。

第32問 木下夫妻と土方夫妻と飲み会（前書き）

最近、ペースがとても遅いと思うので、とばしてこうと思います

第32問 木下夫妻と土方夫妻と飲み会

第32問

土方 side

「どうしよう、酒は初めてだしな。」

「まさか、こんなにも早く、自分の子供と酒がくみ交わせるとは幸せですなー、直人さんはー。」

「まさか、こんなにも早く、義理の娘が出来るなんて思いもしませんでしたよ、うれしいよなー、遙ー。」

「はい、嬉しいですよ、この性にしか興味のない人に妻ができることは、明日にでも、式をあげませんか？」

「それは残念ながら無理ですよ、亮介君が18歳になるまで、ダメですよ。」

「明日学校なんですけど。」

「気にするな、先生には話しておく。」

「納得すればいいけど、あの妖怪が。」

「亮君、藤堂先生にそんなこといっちゃいかんぞ、せめてぬらりひょんとイエ。」

こんな感じで日付が変わるまでこんな話が続く。

「そうだ、亮介君、泊まったらどうだ？昨日は秀吉が世話になったからな。」

「着替えがないんですが。」

「ちやーんと持ってきているので安心していいですよ。」

「すみません、お世話になります。」

「秀吉とセツぐふああ。」

「痛いじゃないか、京子。」

「まあ、今日はお開きで。」

「無視なのか？」という事で終わった。

寝る時は昨日の繰り返しだったことはいうまでもない

第32問 木下夫妻と土方夫妻と飲み会（後書き）

明日はBクラス戦です。

根本君が墜ちる予定です。 Fクラスへ

第33問 仲間と変態と処刑の時間(前書き)

試召戦争編第2弾スタート

第33問 仲間と変態と処刑の時間

33問

土方 side

とりあえず、学校にいます。

朝はいろいろ、あつて思い出さたくないなので省略します。

「おはよう、亮介。」

「なんだ、悦司かー。」

「おまえひストライクベントを使っていいか？」

「僕は、ガイの奴が見たいなー。」

「龍騎の方だ、くたばれ。」

「ぐわあええええええええあああ」

「「亮君を虐めちゃ、ダメ！」」

「鋭い斬撃がもろ響くー。」

「亮君をやるのは、あ・た・し」

「ダメだよ、亮君を遣るのは私だから。」

「おはよう、土方君、秀吉。」

「おはよう、元・明久。」

「やめてくれない、泣くよ、僕。」

「土方が秋ちゃんを泣かせたぞー、総員突撃ー！」

「ところが、ぎつちよん！」

「カナンにやられるなら俺達はしあわ…」

ぶしゅっざくっざくっざくっざくッ ×10

「やめるのじゃ、神楽。」

「いまからしようとしたのにー、ヒデンのケチ。」

「そういえば秀吉、いつ来た？」

「あの時以来、ずっと一緒だったよ。」

「あの時？」

「亮君、とても気持ちよかったよ。」

ザツ×モブキャラと愉快的な仲間達

「みんな、違うよ、僕は、」

「亮介は悪くない。」

誰だろ、僕を助けてくれたのは。

第33問 仲間と変態と処刑の時間（後書き）

本当は宣戦布告まで行きたかったのですが、入りきりませんでした。

第34問 仲間と変態と救いの手（前書き）

久々にモンハンやったら、下位のシエンガオレンにぼろ負けでした。理由は、ハンターボウ1とハンターシリーズで遊んでたからですが。と言うわけで第三作目はモンハンを書こうと思います。くわしくはきめてませんが。

すみません、前書きが長くなりすぎました。

第34問 仲間と変態と救いの手

第34問

沖田 side

ガラッ

あれ、和希と教室にきたら円になってる。中心はいつもどおり、亮介だった。

「一体、何があった？優樹。」

「彼奴が性犯罪者だということがばれただけでみな、退いてるだけさ。」

「なんだ、それだけか。」

和希と八モる、まあ親友だし八モって当然か。

土方 side

「優樹ー、たすてけー。」

「断固辞退する。」

「秋子ー。」

「まさか、亮君が。」

「悦司ー。」

「今、楽にしてあげよっか」

「悦司、浮気は許さない。」

悦司、ツラ麻里さん、退場。「秀吉ー、助けてー。」

「なら、私のお願ひ聞いてくれる？」

「オフコース！」

「じゃあ、昨日の続きを」

「ごめんなさい、土方君、宣戦布告に逝ってきて頂戴。」

「分かったよ、代表。秀吉、帰ったら伝えたいことがあるんだ。」

「亮君。」

「秀吉。」

僕たちの幸せが

「我々Bクラスは今からCクラスに試召戦争を申し込む。」
「いいわよ、ネモネモ。」
「友香、そのとなりの奴は…」
「根本？」
「ネモネモ、討ち取ったりー、切り捨てー…」
「待つんだ、優樹。人の話は最後までできくのは礼儀だろ。」
「こいつに礼儀は必要ない。そしてすでに始まっている。」

第34問 仲間と変態と救いの手（後書き）

試召戦争開始！ついにあの男が動く！誰かって？一回だけでてる人です。ご要望があったら申し込んでください。できる限りこたえますので。

第35問 戦争と変態とあの男(前書き)

前回紹介した男とは？

一話だけ、登場し、せりふは一言、オリキャラー悲しかった奴。

第35問 戦争と変態とあの男

第35問

悦司 side

さっきの処刑は痛かったな。

「漱士郎、奴を使うのか？」

「いけ、ただお無料男！」

「兄貴ー、おらは忠志です。」

「根本を抑えろ、彼奴を卓袱台以下へ連れていく」

「了解です。」

「サモン！」

沖田漱士郎 物理 674点

根本恭二 物理 181点

「せやあああああ。」

「坂田和希、加勢します。サモン！」

和希の召喚獣、明らかにクラドだな。

「凶斬り。」

「ぐっふるあああああい。」

「戦争しゅーけーっ！」

「高杉優樹だ、こちらの目的は、ネモネモ？だった奴にござとみかん箱のプレゼントさえすれば設備を落とさない。」

「絶対に完遂させる。」

「待て！おっつぐるっはああ！」

「黙らせました。」

「見事だ。雄二？いや、雄子に伝えてやれ、秋子。」

「分かったわ、優樹。」

「ついでにお前、なんで女のしゃべり方に慣れてるんだ？」

「企業秘密」

「後で話がある。」

第35問 戦争と変態とあの男（後書き）

主人公の活躍が無し。次回、悪いのですが、一気に強化合宿まで飛びます。

番外編 各クラスの放課後 いちっ（前書き）

強化合宿前に番外編をいれさせていただきます。清涼祭は後で投稿するかもしれません。

番外編 各クラスの放課後 いちっ

Cクラス 放課後

沖田 side

無料男の活躍？のおかげで楽勝だった。「無料男君、だっけ？協力かんしゃするわ。」

「おらは忠志でっせ、姉御」

「沖田君、コイツに光は拝ませないでいいわよね？」

「友香、さすがにそれは。」

「いいわよね？」

といいつつ、大鎌威太刀とスコールが持っている、ガンソードを両手に持ち、構えている。

「はい。」

しかも、あの殺気はセフィロス以上、というより、ティガレックスやラージャンが逃げそうな位だ。

「やっぱ、やめるわ。そのかわりに、漱君、買い物につき合ってくれないかな？」

「身の安全が大丈夫なら買い物ぐらいは…」

「土方を殺せー！」

「あらら、そんなに死にたいのかしら」

初心者ハンターがミラボに襲われているところが浮かんだ。

side out

Fクラス

「雄二！大変だ！」

「どうした、元明久。」

「女装した根本君が明日から、このクラスになる。」
静かな空気が流れる。

番外編 各クラスの放課後 いちっ（後書き）

えつと一部、キャラ設定を一部変えようと思います。
ということとで次回キャラ紹介 さん

キャラ紹介さん(前書き)

堕天使と呼ばれた高杉優樹と沖田の親友坂田和希のプロフィールと高杉、沖田の修正です。面倒な方はとばして結構です。

キャラ紹介さん

キャラ紹介

高杉優樹

クラス C

学力 B

外見 セフィロスのような感じ

性格 セフィロスほどではないが悲しい過去があり、あまり、優しさが感じられない。(友達以外)

召喚獣 セフィロスと同じ格好

武器 セフィロスと同じ太刀

腕輪 リユニオン 50点消費

慈愛の天使 百点消費、敵点数を七割減らす。

あだ名 墮天使

坂田和希

クラス C

学力 B

外見 クラウド

性格 優しい

召喚獣 クラウドと同じ

武器 バスターソード

腕輪 究極武闘神： 50点消費、初期点数の半分ダメージ

変更点

沖田

召喚獣 スコール

外見 スコールとほぼ変わらない

武器ガンソード

腕輪 ライオンハート

マッドサイエンティスト
高杉 浜砂忠志

キャラ紹介さん（後書き）

いきなりかえてすみません。

スコールとはFF8の主人公です。

ちなみに高杉と坂田は仲が悪いわけではないので間違いの無いよう
に願います。

次回、バカテストを書こうと思います。

感想、ご要望、ご意見、お待ちしております。

番外編 各クラスの放課後につ (前書き)

いきなり、設定変えてすみません。今回は土方達はでない予定です。

番外編 各クラスの放課後につ

Fクラス

秋子 side

「何しやがったんだ、あの墮天使。」

静寂の中、雄二が声をだす。

「聞きたいか？」

不意に声が聞こえる、その声の主は

「優樹君。」

「坂本、理由は単純。主戦力達を奪ったお礼だ。」

「性格が悪すぎるぞ。」

雄二がそんなこといえないと思う。

「秋子の思ったとおり、あいつにそんなこという権利はない」

小山さんもらしいけど人の考えは読めるものなのかな。

「じゃあ、用が済んだし帰らせてもらう。秋子、最後の別れは告げなくていいの？」

「じゃあね、雄子、楽しかったよ。優樹君、帰ろう。」

「高杉を殺せー！」

「こいつらおかしいな。」

否定できない、どうしてだろう？

優樹君と一緒に帰った。呼び捨てだったら女子らしくないと思うから君づけをがんばっている。

帰り道

「女子になって頭はよくなったのか？」

さりげなく聞いてきた、きつい質問。

「そんな訳ないじゃい。」

性別が変われば頭は良くなるのかな？

「なら、生活はいつもどおり塩水か」

なぜか優樹君は私の食生活を知っていた。

普通の雑談の後、
いえの前で別れて帰った。

番外編 各クラスの放課後につ (後書き)

次回から？強化合宿だと思います

感想、ご意見、ご要望等、お待ちしております。

第36問 僕とバスと脅迫状（前書き）

PV19000達成。（いえーい！）

なぜ、こんな、中途半端な所で祝ってる理由は二つあります。

一つ、しばらく、確認してなかったから。

二つ、第3巻に入るため。

という訳で強化合宿編スタート。

第36問 僕とバスと脅迫状

第36問

土方side

今日は、秀吉と秋子？と登校してきた。

靴箱

バタツ×2（靴箱をあける音）

ドン！×2（手紙発見。）

ボー、ボー、（僕の手紙が秀吉の火炎放射器で焼かれる音）

ぎゃあああああ（秋子の悲鳴）

「秀吉、手紙くらい読ませてよ。」

「だめだよ、亮君。ところで秋ちゃん、何があったの？」

「脅迫状が。」

「「脅迫状？」」

「秋子、内容は？」

「貴方の近くの女性に近づくな、近づいたら……」

「どうした？」

「小さい頃の写真をばらまかれちゃう。」

「一体、どんな嫌がらせだ。悲しすぎる。」

「姉さんの可能性があるけど、今は大学生だから。」

「違う、なら姫路か？」

「あら、明君、まさか、目覚めたんですか？」

「個人的にはこれは秋子の姉だと思う。」

「貴方は、えつと……」

「土方亮介です。」

「私は吉井昭といいます。貴方は土方桜さんの弟ですか？」

「姉さんを知ってるんですか？」

「はい。ボストンの大学の親友でしたからね。」

「待て、姉さんの知り合いだと。常識人じゃないな。この人。」

第36問 僕とバスと脅迫状（後書き）

土「土方亮介から始まるー。」

沖、坂、高、近「いえー！」

土「後書き雑談会ー。」

土「どうも、司会兼主人公の土方です。」

高「作者代理の高杉優樹だ。」

近「副司会の近藤悦司です。」

沖「サポーターの沖田漱士郎です。」

坂「上に同じく、坂田和希です。」

土「このコーナーはこの作品についてキャラたちが雑談するコーナーです。優樹、作者は？」

高「閃光の伯爵はもう一方の作品の方にいった。」

近「あいつ、捨てたのか？」

沖「ちなみに、作者の呼び方はライトニングカウントのため、ユーザー検索では気をつけてくださいね。」

土「おっと、もう時間。作者についてキャラが文句を言う権利があるのか？では次回でまた会いましょう。」

第37問 僕と姉さんと脅迫状（前書き）

土「土方から始まるー、」

山「いえー。」

土「作者の報告ー。という訳で、土方亮介と、」

山「最近、出番がない、山崎百合で送りします。」

土「今日の報告はしばらく更新が出来なくなるかもしれないことと、」

「

山「PV20000達成！」

二人「これにて報告を終わります。本編をどうぞ。」

第37問 僕と姉さんと脅迫状

第37問

土方 side

今、僕らは学校にいます。理由は強化合宿のバス待ちだったのですが、

「姉さん、何で此処にいるのさー？」

「今日から、この学園の教師だからですよ。」

「「なんですとうおー！」」

いや、おかしい。

「確か、21Cでした。」

「そんなbanana！」

ババア何しやがった。僕達がいつたい何をしたと。

「亮君、それ古いよ。」

わかってる、だがそれよりも

「秋！」「亮君！」

「「ババアを潰しにいくぞ！」」

「逃がしませんよ。」

ガシッ（僕らが昭さんに掴まれる音）

バキッ（骨にヒビが入る音）

ガシッ（秀吉が僕にサブミッションをキメル音）

ゴキッ（秀吉に間節を外させられる音）

ばたり

side out

「亮君、此処で寝たら迷惑だよ。」

二人の死体？は保険室に運ばれた。

3時間後

バスの中にいた。

第37問 僕と姉さんと脅迫状（後書き）

土「第二回」

沖「後書き」

坂「雑談会」

高「今回は、意見箱を置いたら、様々な悩みが来たらしい。それを答えてもらう。」

土「今回だけで？」

沖「期限は無いそうだ。」

坂「一個ずつ答えればいいさ。」

高「方様、私の弟が私に出番をくれません。」

土「姉さんか。」

沖「その前に、それは作者にいうべきだ。」

土「伯爵さーん。」

僕と翼と召還獣があるので先にいきます。

坂「きつと出番がきますよ。」

土「姉さんは出なくていいよ。」

高「ちなみに方さんは二三話後ぐらいに出るそうだ。」

沖「次回をお楽しみに。」

第38問 僕とバスと暇潰し（前書き）

バスの中で二話ぐらい取ろうと思います。

第38問 僕とバスと暇潰し

第三八問

土方 side

うーん、何処だ？僕たちは…

「亮君、大丈夫？」

「秀吉がいるから大丈夫だよ。」

「あれ、土方君、目が覚めたの？」

「友香、何をする気？」

「男子が土方君を渡せとウルサイから渡そうとしたけど、恐ろしい。さすが元・根本の彼女

ガシツミシミシミシ…

「ぐうるわあああああ。」

「亮介君ウルサイですよ。」

「「邪悪な気配。」」

「誰が邪悪ですか。」

「遠藤先生、この方は？」

「初めまして、土方亮介の妻兼教師の吉井昭です。」

「昭さん、冗談は…」

「亮君、浮気はダメだよ。」

「死刑執行」

「忠志、何故此処にいる。」

「おいらいは、このクラスでっせ。」

マジで？根本の引き渡しだけじゃないんだ。

「亮君。」

「何かな秀吉。」

「お昼、食べよ。」

「いいけど、視線が凄く痛い。」

「気にしちゃダメだよ。」

第38問 僕とバスと暇潰し（後書き）

土「悩み相談箱につ」

高「亮介はスルーして、ペンネーム、悦司、愛してるさんの意見。」

近「麻里だよな？」

沖「たぶん。」

高「私の許嫁が他の人の尻や胸を触りまくっていつ浮気するかわからない。」

秀「私が答えるよ。彼氏持ちの人共通の悩みです。私も毎日、亮君と一緒に……」

土「今回はここまで。次回を……」

坂「亮介は相変わらず痴漢をしてるのか。では次回もお楽しみに。」

第39問 僕とバスとお昼ご飯（前書き）

昨日は投稿できませんでした。すみません。

土「理由は？」

寝っころがってたら睡魔に負けた。

土「このバカ作者め。」

作者に逆らったら…

土「すみませんすういたああああ、チョーシこいてましとうあああ
！」

変態はスルーしてどうぞ。

第39問 僕とバスとお昼ご飯

第39問

土方 side

「亮君、秋ちゃんとかも呼ぼうよ。」

「秋ー、昼飯一緒に食わないか？」

：

反応がない？

どうしたんだろう？

「秀吉、秋が倒れてる。」

「あれは、姫路の仕業だよ。」

姫路の料理はどのくらいやばいんだろ？

「姫路、俺にも一つくれ。」

どんな味が、気にな…

ドサッ

前言撤回 味の問題じゃない、薬品の味が…

side out

秀吉 side

ドサッ

なんだろう？嫌な予感が…

「亮君！」

亮君が倒れていた。

姫路、もうあいつは許さない。

「亮介、大丈夫か？」

沖田も心配してくれてるみたいだ。

シーン…

返事がない、どうしよう？

どうやって姫路を消そうかな

こんな事考えていたら、合宿所に着いた。

第39問 僕とバスとお昼ご飯（後書き）

土「作者が述べるー、自分の書いた小説感想ー。第39問編」

閃「秀吉が崩壊した所が後書きかいてたら、あれ、おかしいな？と思いましたがまあたまにはこんなんでいいかなと思いました。」

土「長つたらしくて、面倒な感想をありがとうございます。次回からは覗きですよね。」

もう一方の更新があるから帰らせてもらおう。

作者 閃光の伯爵より

土「勝手にくうわえるぬうああ！」

沖「次回からは主人公の過去についてです。」

坂「理由は、主人公の過去について知りたい人がいると思うのと、走馬灯をみてほしいからです。」

高「次回から、過去編です。よろしく。」

第40問 僕と過去と走馬灯（前書き）

なんと、僕と翼と召還獣より、週間ユニークアクセスが多いということに。

土「きつと、僕と秀吉の感動的な愛のおかげさ。」

土「待って秀吉、声まねなんてやめてよ。」

秀「分かったよ、亮君。では過去編をどうぞ。」

第40問 僕と過去と走馬灯

土方亮介の過去

司会は土方亮介で行います。

小学校

小三の時に、香奈、高杉と出会う

土方side

「カーナちゃん、お兄さん達とエメラルドの都までランデブーしない？」

「離して下さい。」

「調子にのるなー！」

「やあめろおおおー！」

「だれだ？」

「破壊する」

「は？」

「貴様等を破壊する！」

「己の意志で！」

「土方亮介だ。」

「さしずめ、武士仮面だ。」

「かかれ！」

「ライダーキック！」

「ぐふあああああ。」

「誰？」

「おまえら、殺す。」

「やめなさい。上級生として恥ずかしくないのか？」

「すみませんでした。」

「ありがとうございます。お名前は？」

「土方亮介だよ。君は？」

「香奈。神楽香奈。私は亮君のお嫁さんになる。」

「土方、近藤、高杉、職員室に来るように」
これが高杉、神楽、近藤との出会いであった。

第40問 僕と過去と走馬灯（後書き）

過去編は台詞がとてつもなく多いのでご理解ください。
次回は沖田、坂田、山崎との出会いです。

第41問 僕と過去と走馬灯2（前書き）

過去編はいつも以上に駄作なので読みたい人以外はとばすことをおすすめします。

第41問 僕と過去と走馬灯2

過去編

中学

土方視点

僕はあの事件で三人と知り合った。そして文月中学校に四人で入学していた。

「同じ学校だね、みんな揃って。」

といつつも新しい友達を期待している。当然、この三人も大事だけど。

ゴン（優樹が頭を殴る音）

バン（悦司が僕を押す音）

バン！（だれかにぶつかった音）

やばい、謝ろう。

「すみません。」

「いや、こっちが悪いから気にしないでくれ。」

とてつもなく優しい人だな。

「僕は、土方亮介、あの、お二人とも名前は？」

「……はははははははは。」「……」

何故か香奈以外に笑われた。僕が一体何をしたと？

「俺は沖田漱士郎。」

漱士郎か……。なんかかつこいいいな。名前的にもかつこいいし。

「俺は坂田和希だ、よろしく。」

こっちもイケメンだ。まさか、類は友を呼ぶという奴かな？という
ことは……

「……安心しろ、お前は不細工だ。」

期待した僕がバカだった。

「亮介（変態）は置いといて、スクールとクラウドに似てるな。」
僕の扱い、酷い。

「そういう君は、セフィロスかな？」

「俺は、高杉優樹。いや、文月の墮天使という方が分かるか。」

「俺は文月の獅子、和希は文月のアルテマウエポンとして通っている。」

第41問 僕と過去と走馬灯2（後書き）

一話に入りきりませんでした。次回は最後に木下姉妹で閉めたいと思います。

中学は、何かの記念に改めて書くと思います。

第42問 僕と過去と走馬灯3（前書き）

今回で過去編も最後（の予定）です。くそ作者と思ってると思いますが、どうか見てくれるとありがたいです。

第42問 僕と過去と走馬灯3

過去編3

土方視点

あれ？さっきまで中学の話だったのに、幼稚園の話へ戻ってる。ま
ついつか。

「まって、優ちゃん、秀ちゃん。」

なつかしいなー、一緒に遊んでても、秀吉が男というのを知らな
かった僕。幼なじみなのに。

「分かったよ、亮君。」

こちらは優ちゃん。秀吉が男だと知ってたら、今の秀吉と僕みたい
になってるかもしれない。

「亮君、まったく、しかたないのう。」

こっちは秀吉、幼稚園児の時から爺言葉を使う、現在の彼女。

「どうしてそんなに二人とも急ぐの？」

「早く遊びたいからよ。」

「そのとおりじゃ。」

この時の僕らは走り回ったりするなど一般の遊びをしていた。
こんな毎日を過ごしていたが…

別れが突然やってきた。

一年間親が仕事関係で外国に行くはめになった。僕は親戚の世話に
なることになった。

「亮君、待って。私たちを置いていかないで。」

「そうじゃぞ。」

「一年たったらたぶん会えるよ。それより秀吉。」

「何じゃ？」

「大好きだったよ。」

「気持ちは嬉しいのじゃが、わしは男じゃ。」

「僕の初恋がー！」

虚しくチツタ。秀吉が女子になるまで会うことが無かった。
これって走馬燈じゃないか。目を覚ますと皆が心配そうに見てた。

第42問 僕と過去と走馬灯3（後書き）

無茶苦茶ですがすみません。次回からは強化合宿と後書き雑談会を再開します。楽しみにしてくださいとありがたいです。

第43問 僕と合宿所と覗き（前書き）

昨日は投稿できず、すみません。日曜日に体育大会があり、その疲れに勝てないため、終わるまで休ませていただきます。ご勝手ですがお許しください。

第43問 僕と合宿所と覗き

土方side

あれ？ここは？合宿所か。何故、此処にいる？簡単さ、料理食って倒れたからさ。

自問自答を繰り返し、状況を理解する。秀吉とかが心配そうにみてる。

「亮君、大丈夫？」

こちらは彼女の秀吉。赤い液体が制服に付いてるが気にしない。

「大丈夫だよ。」

「冗談抜きで危なかったからな。」

悦司がジョークであって欲しいことを真顔で言ってる。まさか…

「前世の罪を償ったり、秀吉とかに遺言とか言ってたから、もう駄目かと思った。」

こちらは優樹、セフィロス似の友である

「マジで？」

「本当だ。」

こちらは文月の獅子ことスコール似の漱士郎、彼はこんな所でジョークは言わない。

「いい加減認めろ。」

和希まで言うなら認めざるをえない。

「にしても廊下がとてもうるさいんだが。」

あ、本当だ。隣からか。

「手を後ろに組んで、動かないで頂戴。」

この声は…

「友香の声だ。」

「悪いけど、中林さん、後はお願いね、もう一つ」

まさか…、まさか…。

「木下さん以外は手をくみ、おとなしくしなさい。」

やはり、でも、なぜ僕らなんだ？

「俺達の理由は？」

「土方君は変態だし、その周りにいるから怪しいのよ。」
僕ってどんな感じで見られてるろ

第43問 僕と合宿所と覗き（後書き）

土「今回は秀吉に付いてた赤い液体について。」

高「秀吉、言つてやれ。亮介がびっくりするぞ。」

沖「確かに何があつたんだ？」

坂「俺は、断末魔の叫びしか聞こえなかつたんだが。」

土「今ので、だいたいわかつた。」

高「正解を。」

秀「まず、姫路の関節をすべて外し、悲鳴を聞き、駆けつけた島田に膝十時固めを……」

土「ストリープ、それ以上はお茶の間に流せないから無理だよ。」

近「メタ発言をするな、リア充野郎が。」

高「お前も人のことは言えない。」

沖・坂「そのとおりだな。」

近「なんだと！」

高「亮介、秀吉、しめろ。」

土・秀「悦司は無視して次回もお楽しみに。」

近「無視すんなー！」

44問のぞきとバカと待ち伏せ（前書き）

明日の予定だった、体育大会は水曜日に延期となりました。また投稿できそうにないですが、ご了承ください。

44問のぞきとバカと待ち伏せ

土方side

「友香、証拠は？」

これで無かつたら、恥ずかしい目にあわせてやる。

「代表、つまらない理由だったら襲われて大変なことになるぞ。」
優樹に思考が読まれている。

「たぶん、欲求不満をお前ひぶつけるだろう、もちろん性的な方と
思うがな。」

くそ、どこまで思考を読んでもらうんだろ？

「証拠はこのカメラよ、これに指紋があるのよ、貴方のがね。」
何！

「忠志め、しくったか。」

くそ、ムツツリー二に頼むべきだった。

「兄貴ー、見つかってない奴ありましたっせー。」

ビンゴ！となりで何か盛り上がってるなー、何だろ？

「いくぞ、ムツツリー二、須川！」

悦司とアイコンタクトで連絡する。

「悦司！」

「ぐわあああああああー！」

こりゃ、無理だな。と言うとでも思ったか？

僕は悦司の首を引っ張りながら坂本の所に行く。

「坂本、待ってくれ。」

「悦司に土方、どうした？」

「俺達も濡れ衣がかぶさってるんだ、手伝っぜ。」

「そりゃ、助かるな。」

やった！仲間ゲットだぜ。

「布施センは僕がやるよ。」

肉体的にやりたいけど無理だから。

物理

生徒 土方亮介

1
7
8
点

教師 布施つち

6
8
7
点

卑怯だ。

44問のぞきとバカと待ち伏せ（後書き）

テストが悪かったので、最悪、投稿がしばらく無理かもしれません。
ご了承ください。

45問のぞきとバカと合同自習(前書き)

明日、体育大会が延期になりました。連載は再会しようと思います。近いうちに3作目を書こうと思います。バカテスのクロス物の予定です。

45問のぞきとバカと合同自習

土方side

あののぞき作戦は失敗に終わり、ガトー少佐（笑）に鉄拳指導を受け、反省分を英語で書く羽目になった。

敷いてあった布団の中に入り、寝た。

はずだった。だけど、秀吉がいる。服を何故か着ていない。下着はつけて

いなかった…

つまり裸だった。これがばれたら…

この学年の男子九割が敵になる。にたような立場のやつがいれば…
いるわけ

いた。悦司だ。

こんな状況で朝を迎えた。

「おはよう、亮君。」

何故、さりげなく挨拶出来るのだろうか？

「なんで此処にいるの？」

変な理由じゃないように…

「夫と妻は裸で一緒にねても問題ないと思うけど。」

問題ありすぎだよ。悦司達も同じやり取りをしていた。なら悦司の首を採るのみ。

バツ（僕と悦司が襲いかかる音）

ガシッ（お互い、肩を掴む音）

ビキッ（お互いの骨にヒビをいれる音）

ゴロゴロ（痛いので転がる音）

ガチャ（ドアが開く音）

ドン（鉄人が吹き飛ばす音）

「静かにしろ。」

「了解です。」

くそ、タイミングが…

という事が朝にあり、合同学習の時間に。

「待って、秀吉、それはさすがに。」

なにが起きているかって？単純に周りからはとてもイチャついてる
ようにしか見えない。

45問のぞきとバカと合同自習（後書き）

妙な終わり方ですみません。久々に書くと、元々文才がないのに、さらに酷くなっている気がします。感想、ご意見等、お待ちしております。

46問のぞきとバカと合同自習2(前書き)

昨日は投稿途中に突然切れて、書いていた話が一気に消滅したため投稿できませんでした。すみませんでした。

46問のぞきとバカと合同自習2

土方side

みんなからの視線が：

「秀吉、さりげなく僕のベルトに手を掛けないでくれるかな？」

みんながカッター、ボールペン、裁縫針とかを構えてるから。

「亮君は私のこと嫌いなのか？」

これは誤解を解かないと、クラスメートにも殺されかける。

そして、忠志、優樹、悦司、漱士郎、和希がなぜかこっちに来る。

「違うんだ秀吉、（僕は代表の）『お尻が見たい』って誰！違うよ、

今のは誤解（で香奈と秀吉の）「胸に」埋もれたいだけなんだ。

ってそれじゃ、変態みたいじゃないか。」

秀吉と香奈がブレザーを脱ぎ始める

「違うよ、二人とも（僕が見たいのは）『お尻』待てー！5人とも、

僕が変態みたいじゃないか！」

「……………えっ！違うの？……………」

5人そろってその反応はちらいんだけど。

と思ったら秀吉、百合、香奈、秋子以外みんな驚いてる。何これ、

集団虐め？流行ってるのかな？

「みんな、亮君は変態じゃないよ。」

僕の味方は秋子と秀吉達だけだ。

「……………ああ……………」

なんで君たちはそんなに意見が揃うの？

「隠してた趣味がバレただけだしな。」

「…亮介、エロは自重するべき。」

まさか、ムツツリー二に言われる人が来ようとは、ショックだ。

46問のぞきとバカと合同自習2（後書き）

ムツツリーニがとても久々に喋った気がします。確か試召戦争以来
と思います。たぶん一言ぐらいとおもいます。

47問のぞきとバカと二日目夜(前書き)

ディシディアファイナルファンタジーに今ごろはまっている作者です。今はセフィロスとウォーリアが100レベルです。今はスコール、クジャ、クラウド、セシルの育成中です。

47問のぞきとバカと二日目夜

土方side

今日は覗きはどうしよう？

忠志と悦司は向かったから行こうかな？

「雄二、僕も行くよ。」

「お前がいれば百人力だ。」

なんか頼られてうれしいな

「みんな、よく聞け、この土方亮介は、あの女装コンテストで秋子と同レベルな奴で特別観察廃棄処分者だ。」

なんでゆうじが知ってるんだろ？

「なんだって！あの超クールな土方お姉様はコイツだったのか？」

「ああ。」

あれつてめっちゃ人気あるみたいだ。

「だから、亮介に女装してもらい、がんばった人には亮子とのデートがある。がんばってくれ。」

「コイツ、ユア、マジエステイ！」

え？何？了解しました皇帝陛下？コイツ等潰す。

「亮介、お前に地獄をみせてやる。」

ふん、僕はやばいことなんて…

ピッ

電子音の後、再生される。

「優ちゃん、一緒に幸せになろう。」

絶対告白文と思われる。捏造したのだろう。

「画像もあるぞ。」

これは、前に優ちゃんと一緒に二人つきりで遊びに行こうと言われた時の写真じゃないか。

「協力してくれるよな？」

断ったら僕が…

「はい。」
「さよなら、僕の男のプライド。」

47問のぞきとバカと二日目夜（後書き）

優子とのお出かけの話は読者は何のことだか、分かってないと思いますので、説明させて頂きます。

これは連載五十話記念とグランドパークの代わりの話です。なので五十話終了後、いったん本編から離れます。ご了承ください

48問のぞきとバカと三日目（前書き）

皆さん、一つ聞きたいのですが、この作品での優子と秀吉の判別の仕方が分かりますか？

分からない人が居るときの為説明します。優子は一人称をあたし、秀吉は一人称は私となっています。分かりづらい時は参考にしてください。

48問のぞきとバカと三日目

土方side

昨日の夜は恥ずかしすぎるので省略を…

「させないさ、亮介。」

その声は…といつても小説に音声は…

「ある訳がない。」

悦司と優樹だ。待つて説明しないでくれ。

「女装した亮介は女子にも人気が高く、土方お姉様！。と女子に言われてた。」

穴があつたら入りたい。

「なおかつ、嫉妬により秀吉が女子に潰され、高橋女史、漱土郎と和希が武力介入をして戦闘は終わった。」

本当に大変だった。でも、今日がラスト、明日は帰るだけ、静かにしてれば問題ない。

「ところで、亮介。覗きが成功したら秀吉の裸が…」

そつだ！僕は何をしていたんだ！バカじゃないか！

「亮介、少し携帯電話を貸してくれないか？」

「携帯はどうしたの？悦司。」

まさか、づらさんにパクられたとか。

「送信完了。」

ん？何したんだろう？

「悦司、何した…オイ、人の携帯にお茶かけたあげく、ハンマーで割らないで！」

酷い、どんな内容なんだろ？

「ほう、吉井にそんなメール送つたら、少し大変なことにならないか？」

くそ、どういうメールを…

「さて、最終決戦に行くとするか。」

「優樹、僕も行くよ。」
そして最終決戦が始まる。

48問のぞきとバカと三日目（後書き）

あと三話ぐらいで強化合宿が終わりの予定です。その後はプールの話の予定です。

49問のぞきとバカと三日目最終決戦。(前書き)

昨日はバカとテストと大脱走を呼んでたら、更新し忘れていました。すみません。

49問のぞきとバカと三日目最終決戦。

土方side

「先生、手伝いに来ました。」

布施先生に声をかける。

「なら此処の男子生徒は任せました。」

あれ？捨て駒なんだろう？優樹達とははぐれたみたいだ。

「お姉様、どいてください。」

やめて、僕の黒歴史を…

「亮介、終わりだ。」

その声は！といっても小説に声は

「何故だ？お前はなぜ女子の味方をする？」

きつい質問だ。なぜなら昨日まであつち側だったからね。

「気づいたのさ、成功したら、秀吉や、友達の裸が見られる事を。

というより悦司君はいつも麻里さんと裸で寝てるじゃないか！」

今朝分かった新事実。

「貴様がいえたことか！貴様が原因なんだ！」

ちっ、反論出来ない。

「土方を倒し理想郷にいくぞー！」

ヒュー、ドン！

何だろう？

勝手に召喚獣が…あれ一点？みんな一緒だ。この技って？

その後、優樹が曲の片翼の天使と共入場。

高杉優樹 総合 3978点

近藤悦司 総合 一点

土方亮介 総合 一点

その他の生徒 総合 一点

優樹の腕輪の能力リユニオン。そしてその力の一つ心ない天使。フィールド内の召喚獣の点数を1にするチート並のわざ。

攻撃を食らったら負けのデスマッチが始まった。

49問のぞきとバカと三日目最終決戦。(後書き)

もう少しで強化合宿も終了予定です。その後はハイランドに行きます。

50問のぞきとバカと三日目最終決戦。(前書き)

最近はとても文章が酷くなっていると自分でも思います。すみません。強化合宿も今回終わらせられれば、終わらせたいと思います。

50問のぞきとバカと三日目最終決戦。

高杉 side

俺：私というべきか。腕輪によってだいぶ点数は減ったな。だが、相手は皆一点だな。軽く閃光で終わらせるか。

ヒュー、ズババババ、ドン！

「戦死者は補修うー！」

鉄人：いや文月の悪夢だな。

side out

沖田 side

「高橋先生は西村先生を連れてきてくれませんか？」

鉄人がくればだいぶ楽になる。

「分かりました。」

「和希、一気にやるぞ！」

「もちろん！」

フィールドは大丈夫かって？

あちらが張っている。

「ライオンハート。」

俺の召喚獣の武器が変わる。

「エアリアルサークル！」

まわりに赤い玉が出てきてそれが破裂し、多くの男子生徒が巻き込まれる。

「究極武闘真斬！」

召喚獣が武器を変えつつ、多くの敵をまとめて、終わらせる。

「和希は終わらせたなら、こっちも終わらせるか。エンドオブハート！」

これで男子は片付いたな。

「残りは、西村先生の所だけだな。」

まあ、鉄人に素手で勝てるのはガーランドかジェクトぐらいだろ。

「一応行こう漱士郎。」
あくまで一応なのだ。」

50問のぞきとバカと三日目最終決戦。(後書き)

すみません。次で終わりそうなので終わらせてから番外編に行こう
と思います。感想等を頂けたらうれしいです。

51問のぞきとバカと三日目最終決戦 真。(前書き)

久々の投稿です。いつも以上に駄作になるかもしれません。

51問のぞきとバカと三日目最終決戦 真。

坂本 side

やはり、明久か土方がいないと難しいな。

「…雄二、浮気は「ぎいやあああああ！」」

駄目だ。頭蓋骨にヒビが入った気分だ。

「翔子、待て、これには理由があるんだ。じ」「…嘘。」「って早すぎだろ！」

何か忘れてる気が…

「坂本、おまえは特別補修をしてやろう。霧島、そいつを離すな。そのままにすれば坂本と寝ることを許可する。」

鉄人がジョーク？明日はグングニルあたりが降りそうだ。

今日は生き残ろう。明久は大変だったみたいだ。

side out

土方 side

「ただいマ―ライオン。」

「俺、参上！」

「つもらん。」x3

xですませるほどつまらないの？

「おい、ウホウホども早く寝たほうがいいと思うが？」

優樹はなにが言いたいんだ？

「下手したら夜這いでも起きそうだしな。」

僕ってそんなにもてていたっけ？

「ごめんください。」

この声は…秋子かな？元男子だからって抵抗なく入っているの？

「今日、一緒に寝ていい？」

さらっと核を投下してきた。

「喜んで、といたいけれど、何で？」

「一番気になる質問を…読者の皆様、これは浮気ではありません。」
「安心を。」

「俺達は下に寝るから、ベット使えよ。」×4
心遣いに感謝しよう。

51問のぞきとバカと三日目最終決戦 真。(後書き)

たぶん二話ぐらいですね。どんどん延びてる気がします。
感想等を知るとうれしいです。

52問のぞきとバカと三日目の夜（前書き）

なんか最近、作品が危ない方向に行っている気がします。なるべく早く、合宿を済ませたいです。

52問のぞきとバカと三日目の夜

土方side

待て、女子と同じベットで寝る？だって、さりげなく、あんなことやこんなことを…、

していいわけ無い。僕にそんな下心はない、はず。

「確認するけど、一緒のベッドで寝たりしないよね？」

もしそうだったら、明後日の朝日はみれるかなー？

「えっ！違うの？」

女子という自覚はあるんだろうか？

「じゃあ、おやすみ。」

理性があるうちに…

寝れるわけ無かった。秋子が抱きついてたからね。ちょうど腕が…

「もう寝ちゃうの？」

いや、寝ないと、秋子を…

「寝るなら、寝させないからね。」

なんか期待していいのかな？「待って、秋子、浴衣だからって自分からはだけさせないで。」

これが秀吉にばれたら、右腕以外がエンディングを迎えてしまう。

無事、寝られますように。

翌日

目を覚ますと、秋子がいた。あれ？こんなに近かったら、唇が…重なっていた。

やばい。キスしちゃってるよ。右腕に柔らかい感触が…やばいよ、秋子に嫌われてしまう。

なんて、言い訳しようか。右手が金縛りに…。これでいいか。

左手は秋子の尻を触ってる。明らかに変態にしか見えないだろ。これ。にしても秋子可愛いな。持ち帰りたいよ。

「っ…っ…っ。」

やばい秋子^{あきこ}が起きた。

52問のぞきとバカと三日目の夜（後書き）

書いてる作者がいうのもどうかと思いますが、リア充しすぎだ。リア充はシネ！と思いました。次回で合宿編は終わりの予定です。

53問のぞきとバカと最終日（前書き）

ユニーク5000達成！こんな駄文を読んだけいただき光栄です。
強化合宿最終日。といっても、朝の出来事だけで終わりですが。

53問のぞきとバカと最終日

土方side

「亮君、欲求不満なの？」

さりげなくやばい発言だな。

「違うよ、起きたら金縛りになってて、秋子が可愛いかったのは事実だったけど。」

あれ？秋子の顔が赤くなってる？熱だろうか？

「朝つからベタベタだな。」x4

あれ？昨日の夜もこんな感じが…

「鈍感男の見本だな、これは。」と優樹が言い。

「本当に可愛そうだ。」と、漱士郎。

「確かに、筋がね入りだな。」と和希。

「秀吉に見られたら、修羅場になるな。」と悦司。

皆の意味が分からない。

「こういう時に秀吉が来たり…。」

一番嫌な事考えたら、本当に動かない。

「どうしよう、本当に動かない。」

「亮君、続きは家でしない？」

秋子は誤解を招いてばかりいる気が…

「完全なる浮気だな。」x3

「いったい、何人犠牲者ができればいいんだ？」

違う、絶対に違う！けど秀吉もいいけど、秋子も優ちゃんもいいしな！。恋愛について考え直すべきかな。

「おい、二人とも、早く荷物を片づけないと帰れないぞ？」x4

何？ハモらせるの流行ってるの？

というより、帰ったら、もっと扱い酷くなりそうだ。漱士郎、和希、優樹以外停学だし。太鼓の達人でもやりこもうかな？

53問のぞきとバカと最終日（後書き）

強化合宿編終了。

土「最後、無茶苦茶じゃない？」

高「気にしたら負けだ。というより次回は亮介の浮気だしな。いつもよりユニークやらあがるといいが。」

あー、そのとおりです。

土「酷い！作者さん、僕たちの愛は」「崩れると面白いかも。」
馬に蹴られて地獄に落ちろ！」

作・高「次回をお楽しみに。」

「スルー、ダメ、絶対。」

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？（前書き）

今回から、オリ話に。これは如月ハイランド編の代わりです。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？

土方side

誰だろ？人の睡眠を妨げたのは？

「亮君？今日、暇？暇なら二人で出かけない？」

暇だから行こうかな。女子と二人で出かけるなんて初めてだ。

「優ちゃん、是非行かせてもらうよ。何処に来ればいい？」

あつ、時間も…言わなくて分かるか。

「今、家の前にいるわよ。」

なに？まさか、暇だと予測したとは、さすが優ちゃんだね。

「とりあえず、上がってよ。」

というより、電話する必要ないんじゃない。

「邪魔します。」

「ゆっくりしていつてよ。」

なんかお菓子を出さないかね。

「亮君、そういえば最近、変な噂聞いてるよ。」

う・わ・さ？噂？何の？

「まさか、秋子との事が…」

「吉井さん？詳しく聞かせて。」

事情説明中

「所で何処行くの？」

行き先は分からなかったから。

「いろいろ。買い物メインだけど。」

なに買うんだろ？

「何時から行くの？」

「今から。」

自分の耳を疑った。朝食食べてないのに。向こうで食べるか。コンタクトをつけて行こうかな。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？（後書き）

土「噂って何？」

沖「本当に男なのかどうかというどうでも良い内容だが。」

高「お前の女装は男子を誘惑し、女子に嫉妬心を抱かせるほどだしな。」

土「それって、まさか。」

坂「女の時の方がモテルというわけだ。」

土「嘘だといってよ。」

近「俺、遅れたが、参上！」

坂・沖・高「次回をお楽しみに。」

近・土「スルーのネタは昨日使ったばかりじゃん！」

番外編1 僕と優ちゃんと浮気?につ

土方 side

今、優ちゃんとショッピングセンターに来ている。

「何処行くの?本屋で…あれ、右手の間節が、とれそうになっただけ問題ないか。」

よかったー。悦司みたいに俺の右腕がああアとか言いたくなかったからね。

「今日は服がメインよ。亮君に選んで貰いたくて。」

何故僕?何故僕?たぶん好きな異性でもいるんだろ。憎い、優ちゃんに好意を向けられてる奴を殺したいなー。あはひははふ。

「あれって小山さん、漱士郎君じゃないの?」

どうしよう?まあからかいたいな。行こう。

「行きましょ。二人の関係気になるし。」

side out

漱士郎 side

友香に誘われてきたが、亮介がいる。あれは、木下優子さんだっけ?浮気するの早いな、しかも三股。性格には三角関係を超え、六角になってるが。

「友香。浮気してる人見つけたらどうする。」

「謝るまで痛めつけるかな。」

「よう、亮介、浮気か?」

一般的な挨拶をする。

「やあ、漱士郎、今日もゆかりんフィーバーやってるの?」

何言ってるかわからないが、ラブディバイドを決めたくなった。

「漱士郎と女王様は一体何を?」

そうか!こいつ、よく喜んでたよなー。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？につ (後書き)

次回はほかのカップルと合流予定です。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気?さん

土方 side

あの後、漱士郎達とお話した後、別れた。

今は優ちゃんの服を見に来ている。

あれは?悦司?チツ、あいつがもしバレたら僕の右手がー!

「優ちゃん、ちよつとごめん。」

優ちゃんの手を握り、走る。

そして、優ちゃんの顔が赤いのは疲れたからだろうか?

「亮君、どうしたの?」

「変人がいたから、走ったんだよ。」

ちよつと扱い酷いけど。

「さあ、服を選んで。」

優ちゃんが何か期待している。

どうするか?僕の性癖を完全解放するべきか、抑えるべきか。

「うーん?僕の好みでいいの?」

「もちろん。」

僕が選ぶのは当然、露出が多い奴にきまつてる。たとえば、肩が出てる奴だとか、ヘソ出しとか、ミニスカとか。「亮君って、こういう服好きなんだ。」

でも何故僕基準?

「だいですk…着ている人は抱きしめたいほど愛してる。」

「じゃあ、あたし買ってくるわ。」

マジで?oh, really?

結果的に買ったそうだ。荷物は僕が持つてる。僕は健全な男子だしね。

「お昼はどうする?優ちゃん。」

「ここで済ませましょ。」

僕たちは近くにあった店。ラーメン屋だけど。

「優ちゃん、ラーメン大丈夫？」
「大丈夫よ。チャーハン食べるから。」

番外編4 僕と優ちゃんと浮気？4（前書き）

こんかいは如月グランドパークにいきます。

しばらく更新できない恐れがありますがご了承ください。

番外編4 僕と優ちゃんと浮気？4

土方side

昼食を食べ終わった僕たちは、如月グランドパークに行った。

「優ちゃん、ここで何するの？」

「映画見た後に、色々乗る。」

遊園地に映画館があるんだ。

「何見るの？ボーイズラブ？グキツ、バシツ、ボキボキ。せーの、

コキ、コキコキコキ。よし、修復完了。」

え？人間か？人間です。

「ふつうの恋愛ものよ。参考にしたくて。」

くそ、誰なんだ？というより、あれは…

「カイン？違う。ならあの龍騎士は？カインはあんなに髪が長くな

い。優樹か。あれ？グングニルの体勢だよな？」

あれ、全部声に出てる。

「亮君、意味わからない言葉ばかり言う暇あったら行きましょ。」

そのとおりだね。

映画って長いし、暗いよね。ならさりげなく…したり【閲覧禁止】

をしたり出来る。僕はヤレル。

「優ちゃんの好きな人はどんな人なの？」

あれ、ストレートすぎない？

「ええええええ、ななななななをいっててるの？」

「優ちゃんは可愛いから、優ちゃんの恋いを応援したいんだよ。」

言ってしまった！嫌われるな。

「そんな日になったら教えてあげる。」

映画は長いなー

僕達は映画館を出た。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気?5 (前書き)

久々の更新です。テストによって投稿できませんでした。すみませ
ん。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？5

土方 side

色々遊び尽くした僕達は、最後に日本一の長さを持つ観覧車に乗ることになった。

「ちょうど、夕日が綺麗な頃に乗れてよかったわ。」

「うん、その通りだね。」

なんか、恋人みたいだ。

「なんか、恋人みたいだね。」

一秒前の考えが声に出ちゃったみたいだ。

「ここここここ恋人ー！、そんな訳…」

あれ？何？その浮気しそうな？僕が。

「でも、優ちゃんと恋人の人は幸せだろうなー、殺したいぐらい腹が立つ。」

また声に出ちゃったよー。しかもさっきよりやばい版。

「亮君はあたしのことどう思ってるの？」

「友達以上、家族以下かな？」

優ちゃんも欲しいよ、当然。貧乳巨乳は抜きにして。巨乳は嫌いだけど。え？前に胸に挟まれたいとか言ってたって？ねっ造だよ。本当は優ちゃんと秀吉と秋子の三人を愛したいだけなんだ。

「あのね、亮君、今日一日ありがとう。亮君とかじゃないと男性の友達がいらないの。でも、亮君はあたしのことを最近、相手にしてくれなくて、あたしは亮君にとってどうでもいいのかなって思うようになったの。」

ガタン、急に観覧車が揺れる。

そして僕と優ちゃんはお互いを抱きしめながらキスをしていた。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気?・5 (後書き)

次回で番外編1はしゅりょう予定です。感想等お待ちしております。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？終わり（予定）（前書き）

皆さんはディオディシムディシディアファイナルファンタジーを知っていますか？

とても面白いゲームです。この小説に出る、セフィロス、クラウド、スコールを始め、オニオンナイト、皇帝、ラグナ、ティファ、ライティングなど初代から13までのキャラがでてきます。

思いっきり宣伝してしまいましたが、本編にいきましょうか。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？終わり（予定）

土方side

何？なんか唇に暖かい感触が…まさか、また、人のファーストキスとったの？優ちゃんに謝らなくちゃ。

「ごめんね、優ちゃん。」

「こつちこそごめん。私なんかとキスなんかして嫌でしょ？」

まさか、そのリバーズだよ。一応かの体内からでるリバーズじゃないよ。

「個人的には嬉しいよ、でも秀吉にばれたら、大変なことになりそうだね。」

腕一本ぐらい失いそうだ。

「あのね、亮君。あたしはね貴方の事が好きなの。でもね、貴方には秀吉がいる。あたしは諦めるしかないのかな？」

これって告白？にしても、とても罪悪感が来る！

というより、僕にアドバイスする権利ないよね。

「僕なら、振り向いてもらえるように努力するね。」

歌でもあるけど、恋も勝負も慌てない。これ、重要。

「今言ったこと忘れないでよね。」

まじで！なんか、タコより赤くなってるね。とりあえず

僕は優ちゃんと唇を重ねる。

優ちゃんがとても驚いてる。

「帰ろっか、遅いと誤解されるしね。」

「うん。」

って僕おかしいよね？彼女持ちが他の人とキスするとか。しかも彼女より先に、彼氏から。

この後は何事もなく帰った。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？終わり（予定）（後書き）

次はプールに入る予定です。

感想等くれると嬉しいです。

また、アドバイス等をしてくれるとありがたいです。

番外編2 僕とプールと水着の楽園（前書き）

この後にバイトを抜いて、5巻に入ろうと思います。

番外編2 僕とプールと水着の楽園

土方side

「おい、亮介もとい亮子。」

これは秋子曰く、

「雄二かい？ いったい何か用かい？」

「週末プールの貸し切りが出来るようになった。」

何があつたかは聞かないべきか。

「ただし、掃除を手伝ってもらう。」

はい、謎解明！

「喜んでいくよ。秀吉とか、優ちゃんや秋子とか悦司とか呼んでいい？」

「悦司以外は大丈夫らしい。」

早！準備早！

「土曜日だぞ。」

楽しみー。

時間が経ちました。しばらくお待ちしてください。待たなくていいですが。

土曜日

「おはよう、みんな。」

雄二と霧島さん以外はそろってる。

「雄二達は？」

「鍵を取りに行きましたよ。」

秋子って敬語だったっけ？

「急にどうしたの？ 秋子。」

ちなみに優樹、和希、漱士郎、代表は来ていない。

この人達は何処か出かけたらしい。

「全員来たか、なら行くぞ。」

にしても着替えの様子を見たいなー。

番外編2 僕とプールと水着の楽園（後書き）

感想等を送ってくださると嬉しいです。

番外編2 僕とプールと水着の楽園2 (前書き)

お気に入り件数増えました！。個人的にとっても嬉しいです。

番外編2 僕とプールと水着の楽園2

土方side

プールなどの着替えは圧倒的に男子が早い。退屈と思う人が多いと思うが、一人一人観察する事が出来る。体のラインとか、偽乳とかね。ちなみにムッツリーニはバストサイズまでわかるらしい。ベジータでもスカウター使ってもむりだったのに。

「待たせたです。」

誰だ？一番目は？小学生？島田と書いてるから…ブフオオ！

「弁護士が欲しい。」

ロリ巨乳だと！懲役二年くらいか。

「お前等、小学生相手に鼻血なんかだらしなないぞ！」「な、なんと！何故二人とも無事なんだ？

「葉月！、ソレを返しなさい！」

ああ、パッドか。まだ修行がたりないみたいだな。

「次は誰かな？」

島田はスルー。下手すると痛い目にあうらしいしね。

霧島さんとツラさん光臨！

「他の子を見ないようにね」x2

グサツ！

うわー、音グロツ！

「ぐういやああああああ、目がああああああ！」

優樹達がいたら、笑いながら見てただろう。

そっいえば、ムッツリーニは？

後ろを向くと、青鬼 じゃなくてムッツリーニが、昇天しそうになつてる。

「ムッツリーニ！まだ、秀吉達に来てないよ。」

キラアアアアン

「俺は死なない。こんな所で。」

番外編2 僕とプールと水着の楽園2 (後書き)

感想、要望等、お待ちしております。

番外編2 僕とプールと水着の楽園3 (前書き)

友達がオカマ+オカマ=無限大とかいってるんですが皆さんはどう
思います？

どうでもいいと思うので本編に行きましょう。

番外編2 僕とプールと水着の楽園3

土方side

きれいすぎる。あの二人を殴ってきていいかい？無償に腹がたつ
「にしても二人ともとても綺麗だよ、浴衣で色気攻めしたら、絶対
落ちるよ。」

「そういつてくれると嬉しい。」×2

「二人とも、ちゃんと感想w」

グシャアアアア

片目ずつ潰しやがった。

「ぐういいいいあああ！」

「闇の世界をさまようがいい。」×2

なにそれ？ガブラスさんの真似？

「視界を奪われたのに何を言えと？」×2

ムツツリーニ二人の写真を予約し

「ムツツリイイイイイニ。誰だ？犯人は？」

「すみませーん、後ろの紐w」

ほどけちゃったよ。あのスイカのような大きさの奴が…

興奮してないかって？無論してない。僕、貧乳派。

じゃなくてどうしよう写真をどうしよう？

「あれ？優ちゃん、どったの？」

何故か隠れてる。

「できなよ、優ちゃん。」

胸がはずかしいんだらうか？

「おかしいでしょ？」

上目遣いで聞いてくる。いやー、反則だよ。可愛さが。

「皆さん、すみません。」

そして、今来たのが秋子。あと来てないのは秀吉だけか。

番外編 2 僕とプールと水着の楽園 3 (後書き)

感想等おまちしております。

番外編2 僕とプールと水着の楽園4

土方side

「そういえば、なんで秋子は僕に対して敬語なの？」
強化合宿までは丁寧語あたりだったのに。」

「あんなことまでしておいて、何を言うんですか？」
これってあれだよな。」

ザッ！

「亮介、まさかお前が浮気とは。」

悦司、それって嫌がらせ？

「そういえば、ムツツリーニからそんな写真が来たが本当だったとは。」

あいつ、処刑しよう。

「そういえば、今朝、面白い写真が届いたんだが。」

そういつて見せたのは、先週、優ちゃんと観覧車内でキスしてしまったシーン。」

優ちゃんに助けを求めても、顔がモロ真っ赤になって俯いている。

「ごめん、みんな、待った？」

何故、このタイミングで、秀吉が。こうなったら。

「雄二、すまない。」

バキッ！ジャポン！

携帯を真つぶたつにへし折り、プールに沈める。

「ありがとう、亮介、助かった。」

あれ？何故お礼？

「実は、翔子は一分間に一通ずつ、メールを送ってくる。学校の間だ。これで怪しまれず破壊できた。」

それはストーカーより怖いよ。」

「とりあえずみんな揃ったね。」

それじゃ、僕は優ちゃん達を見ながら過ごそうかな。」

番外編2 僕とプールと水着の楽園5

土方side

なんか、優ちゃんと秀吉がビーチボールをやってる。やたらと割れそうな勢いなんだけど。

「亮君、日焼け止め塗ってくれませんか？」

えーとつまり、日焼け止めを塗る〓いろんな所を触れる。〓エロいでしょう？答えは全力で

「イエス！喜んで。」

秋子は貧乳じゃないけど、巨乳にも入らない、中間である。

「どついう風に塗ればいいの？」

「全身お願いします。」

うほおおお、来たー！

とりあえず塗ろう。

「あ… はあつ… ん… んはあつ…」

エロすぎじゃない？体が反応しそうなんだけど。

「ごめん、激しかった？」

「いえ、別に。気持ち良かったですよ。前もします？」

ビキニの紐に手をかけながら聞いてくる。

「何やってるの、亮君。」

優子と秀吉が来た。

「どうしたの？」

冗談抜きで不思議だな。

「なんかとてもピンク色の空気が漂ってきたんだけど。」

え？あれ、聞こえてたの？

「日焼け止めを塗ってもらってたんですけど、亮君が前みたいに触ってくるんで、感じてしまっただけ。」

待って！それ何時？

「とりあえず、こっちにいこう秋子。」

「私、まだ子供は…」

「違うよ、他のことだよ。」

やばい鼻血が…

番外編2 僕とプールと水着の楽園5 (後書き)

15指定はしてませんが、とても危ない感じがします。苦手な方はすみませんでした。

といっても私はこういふ事とは無縁なんですが。

番外編2 僕とプールと水着の楽園6 (前書き)

いやー、学校が終わると、解放された気分になってしまっ作者です。

番外編2 僕とプールと水着の楽園6

土方side

「秋子、僕には、彼女がいるのは知ってるよね？」

とても驚いてる顔してる。ちょっと傷ついてしまうよ。

「これって浮気じゃ……」

頬を赤らめながら言う。

冗談抜きで可愛い。

「とりあえず、あの事は内緒でお願いします。」

バレたら大変になる。僕と秋子が……

移動中

「亮君、何処行ってたの？」

優ちゃんが少し怒ってる。

「少し怒ってる優ちゃん可愛いなー。」

一瞬で顔を赤らめた優ちゃん。

ガッツ！

「痛いっ！」

誰だ！ 臍蹴ったの。

「秀吉？もしかして僕の臍を……」

いやー、でも秀吉の力ならこんな痛いわけがない。

「亮君のバカッ！」

秀吉が向こうに行った。

「秀吉！」

「これだから、前の明久もだが、お前もやばいな。」

やばい？ 一体何が？

「こういう奴を鈍感というんだよな？」

鈍感だと！

「普通なら秀吉の気持ちくらい分かるだろ。」

秀吉の気持ち……確かに最近、秀吉の事考えてなかったな。

「僕、謝ってくるよ。」

「しばらく後がいい。今、麻里に行ってもらってるから少し待て。」
「とてつもなく嫌な予感が…」

番外編2 僕とプールと水着の楽園6 (後書き)

今回ちょっとシリアスでした。すみません。あんまり、こつこつ話がないため、下手だと思えます。すみません。アドバイス等をくれると助かります。

番外編2 僕とプールと水着の楽園7 (前書き)

今回短めです。

番外編2 僕とプールと水着の楽園7

秀吉 side

亮君は私に愛想が尽きたのかな？嫌。亮君とは別れたくない。でも、どうしたらいいのかな？

「秀吉、大丈夫。土方はちゃんと貴方のことを想っている。」
でも、どうやって謝れば…

「土方はちゃんと気づいてる。そして謝りに来る。」
え？何で？

「じゃあ、私はその時に謝れば。」
麻里が横に首を振る。

「秀吉は謝らなくていい。」
じゃあ、何もなくて…

「その代わりにキスとか、好きなことをすればいい。」
孔明になれるんじゃ？

「わ、分かった。やってみる。」

そしたら、麻里が縦に頷く。

「がんばって。貴方ならできる。」
励ましてくれるみたいだ。

みんなの所に戻らなくちゃ。

番外編2 僕とプールと水着の楽園7 (後書き)

今回でシリアスな部分とはしばらく会いたくないです。
感想等を待ってます。

番外編2 僕とプールと水着の楽園8 (前書き)

10あたりで終わってほしいです。書いてる自分にいっても意味ありませんが。

マクロスフロンティア恋離飛翼みました。木曜に発売されたやつをブルーレイで。興味ない方が多いと思いますが、いい作品でした。本文早く入れ、クソ作者が！と言われる前に書こうと思います。ではどうぞ。

番外編2 僕とプールと水着の楽園8

秀吉 side

戻ってきたら、姫路が何か取り出してる。

「姫路さん、それは？」

亮君が聞く。

「ワツフルです。三つしかないですが。」

「第一回！」雄二の声

「最速王者決定戦！」悦司の声

「ガチンコ水泳対決！」雄二と悦司。

「「いえー！」「ムツツリー」と僕の合いの手

「亮君どうしたの？」

優ちゃん。君と過ごした先週は楽しかった。

「優ちゃん、ファーストキスありがとう。そしてあの日楽しかった

よ。」

今の内に言えることは言っておく。

「秋子も合宿の時ありがとね。僕をあんなに信用してくれて。そしてファーストキスをくれて。」

残りは…

「秀吉、僕は君と共に人生を歩めて良かったよ。」

よし、心残りは無い。

「僕は逝ってくるよ。」

二人は泣きそうだ。優ちゃんは理解してないけど。

「審判はボクがするね。」

「位置について。」

始まる。

「よいい。」

生き残りを賭けた

「ドン！」

戦いが。

「くたばれー！」×3

みんな、これ競争だよ。

番外編2 僕とプールと水着の楽園8 (後書き)

今回フラグ気味でした。次回で終わるといいなと思います。土方「とって終わらないのは作者さんですけどね。」感想待ってまーす。土方「無視なの？」

番外編2 僕とプールと水着の楽園9

土方side

なんでみんな、ボクをけりにくるの？

しかも、飛び込んだ後に。

「ムツツリーニまでどうしたの？」

襲われる理由なんて…

「リア充には死を。」

彼女はいるけどリア充じゃない。

「雄二まで！」

あいつ、僕に向かって蹴りを入れた後に踏み台にしてきた。

「俺は俺を不幸にさせた奴の代わりにお前を絶望の底へつき落としただけだ！」

それは八つ当たり？

「この勝負、「霧島さん、雄二が泳ぎながら秋子ガンミしてる。

悦司も。」おい、ざけんなああー！」x2

あれはスタンガン。水中で使ったら

ビリビリビリビリ！

プールに電気が…

「ぐわああああああ！」x4 部外者の僕達まで痺れる羽目になった。

だめだ…意識が。

あれ？確か僕はプールに…後ろの柔らかいものは？

目を開けるか。

「秋子、僕は一体？」

ムツツリーニ、雄二、悦司達もそれぞれ看病してもらってる。

「亮君、大丈夫だった？」x2

優ちゃんに秀吉が心配してくれる。あれ？何でみんな私服なの？

「じゃあ、一つ風呂寄って帰るか。」

あ、夕日が見える。二時間は寝てたのかな？

あれ？僕も着替えてる。

「秋子、まさか、僕の着替えを…」

いや、まさか。

番外編2僕とプールと水着の楽園9（後書き）

次回で終わればいいと思ってます。

感想や、悪い点、遠慮無く送ってください。改善するようにしたいので。

番外編2 僕とプールと水着の楽園10

土方side

秋子ひ裸を見られた。元は男といえ、今は女なんだ。恥ずかしいはず。

「うん。体が正直に反応してくれてとても嬉しかったですよ。」
嘘と言って神様。

「一割嘘ですから気にしないでください。」
一割で安心する人いなと思う。

「秋子はなんで僕に対してそんな無警戒なの？」
いくらなんでも許しすぎだ。

「おい、亮介、浮気は後でな。」x3
「してないし。早く帰ろうよ。」

早くしないと面倒なことになる。
「亮君、ちょっと聞きたいことがあるんだけど……」
ひ、秀吉、目が怖い。左目に刻印が見える。

「亮君、あたしとちよつとお話しない？」
「…殺したいほど妬ましい。」
なら、変わってくれ。

「…雄二、土方って病気？」
何で？

「え！土方君って病気なの？」x2
驚いてくれるのはいいけど、
「精神的に病気だな。明久みたいに。」

僕がバカだといいたいのか…やばい、両腕の関節があああああ！
「すみません。優子様、秀吉様。なんでも言うこと聞きますから。」
理由は分からないけど、謝るのが一番だろう。

「ムツツリーニ、須川に明日通達、ハーレムやるつを殺ろうと。」
「任せろ。」

こつして無茶苦茶な形でプールの貸し切りが終わった。

番外編2 僕とプールと水着の楽園10 (後書き)

終わり方無茶苦茶ですみません。

次回から四巻に入りたいと思います。

第55問 僕とキスと異端審問会（前書き）

バカテスト

世界史

カースト制度においてその身分を四つに大別した場合正しい名称を答えなさい。

第55問僕とキスと異端審問会

土方side

いつもみたいな朝を迎えるはずだった。

でも起きたら違ってた。

優ちゃんが隣で寝てた。

??????

あれ？何で？

「亮君おはよう。」

「おはよう、優ちゃんあと、携帯取って。」

何？優ちゃんの手元にあっただと！それはともかく

「もしもし、警察ですか？不法進入です。」

「大丈夫ですか？起きたばかりで寝ぼけて見えたのでしょうか、あ、びよう……」

ヤバイ！

「すみません、間違いでした。」

「とりあえず、学校行こうか。」

「そうね。」

「ところでどうやって入ったの？」

鍵閉めてたはず……

「お義母様がくれたのよ。」

突っ込まない、それより、何故母さんは鍵渡すんだよ！

「母さん、何故優ちゃんがいるのさ！」

え？何？この子分かってないわみたいな目は。

「亮君、遙を覚えてる？」

何故いきなり、姉さんを？

「いやー、優子ちゃんと秀吉ちゃんに囲まれたリア充な弟をみせた
いからよ。」

親もリア充とか言うんだ。

第55問僕とキスと異端審問会（後書き）

これは俺と翔子と如月グランドパークのやりとりを主人公達でやってみただけです。書くかもしれないが念のために。
感想待ってまーす。

第56問 僕とキスと異端審問会2（前書き）

バカテスト

前回の答え

を：後書きに書きました。暇な人はみてください。

第56問僕とキスと異端審問会2

土方side

「秀吉を迎えに…」

「あいつはもう出てる時間よ。」

え？時間ないんじゃない？

「急がなきゃ！」

やばい、僕はまだしも、優ちゃんが…

「落ち着いて亮君、学校そこだよ。」

あ、ほんとだー。

「西村先生おはようございます。」

「西一先生、おっはよー。」

鉄拳が：ぐわあああ

「木下はおはよう。土方は西村先生と呼べ！」

えー、西村って発音難しいのに。

「そっいえば、土方。」

何？何かしたつけ？

「彼女持ちがほかの女子と一緒に登校など。」

やばいな、片腕は覚悟するか。

「では、あたし達はこれで。」

早く教室に行こうかな。

教室内

「お久しぶり、みんな。」

秋子を除くメンバーが揃っている。

「なんだ、土方か。」

扱い酷くない。

「おはよう、亮君。」

秋子が来たみたいだ。

「おは…」

唇を奪われたのかな？柔らかい感触が…

あれ？意識が遠のいていく。

第56問 僕とキスと異端審問会2（後書き）

バカテスト

沖田漱士郎の答え

1 バラモン

2 クシャトリア

3 ヴアイシャ

4 シュードラ

教師のコメント

正解です。

土方亮介の答え

1 浮気

2 セクハラ

3 猥褻

4 ナンパ

教師のコメント

何が言いたいのですか？

下に行くほど起きてしまう可能性がたかくなるんでしょっか。

第57問僕とキスと異端審問会3

土方side

あれ？確か僕は…

横には雄二？悦司？漱士郎？

「あれ？僕はどうしたの？どうしてこうなったの？」

手足縛られ、覆面集団に囲まれてる。

「罪人が起きたか。ではリア充撃滅組織、性犯罪者及び異端者の処刑を行う。」

この声って忠志？

「おい、忠志、はなせ。」

やっぱり。

「罪状を読みたまえ。」

「イエスマイロード！」

こいつらあれだな。

「土方亮介、以下コイツを誑しと呼ぶ。誑しはわが校の双花の木下秀吉にレイプを強要し、妊娠させようとしたり、」

？レイプなんかしてないよ。

「さらに土屋氏の話では我ら希望秋ちゃんや神楽香奈、以下このものを紅一葉と呼ぶ。また、山崎百合、以下ぺったぶるらあああ！」

「助かったよ百合。」

危ない、最近は先生に手を出しそうな男子生徒1位だったからね。評判落とさず済んだ。

「べ、別にあんたの為じゃないんだからね！」

そりゃそつか。

「被害者が出たから簡潔に述べよ。」

先生早く来て。

「とてつもなくハーレムなのでめっちゃ羨ましいです。」

簡潔すぎだろ！てゆうか僕がハーレム？そんなわけない。周りに女子が多いだけだし。僕の方こそなりたいよ。

第57問 僕とキスと異端審問会3 (後書き)

感想とか待ってまーす。

58 問僕とキスと異端審問会。(前書き)

三作目書き始めました。タイトルは僕と妖怪と召喚獣です。詳しくは後書きにて。

58 問僕とキスと異端審問会。

土方 side

今、僕は20人の男子からラリアットリレーを食らいそうになっている。理由は僕がハーレムらしいから。おかしすぎて笑いが出るよ。クラスの女子に引かれたことあるのに。

というより助けてー、誰かー。

「皆さん、席に…」

着たー先生。後あれは？

「お前らー、席に着けー！」

お、今回は味方だ、わーい！

「先生、そちらの方は？」

鉄人が聞いてくる。確か最後に会ったのは…

「吉井玲と申します。昨年ハーバード大学を卒業しました。ちなみに吉井明ひ…ではなくて吉井秋子さんの姉でもあります。」

確か強化合宿前にあった気が…

「吉井の姉さんがハーバード卒、両親は海外で仕事、何故お前だけ残念なんだ？」

へー、そういう家庭なんだ。

「おや、土方君お久しぶりですね。確かいきなり痴漢を…」

「冗談やめてくださいよ、玲さん！」

単なる会話してたような。

「冗談ですよ、四割。」

え？半分以上は何なの？

「まあ、がんばってください、土方、土屋、浜砂以外はまともですから。」

酷い！何故悦司とか、優樹とか和希は入っていないんだ？

「改めまして新しい教師吉井玲先生です。私の補助として働いてもらっています。」

58 問僕とキスと異端審問会。(後書き)

三作目はぬら孫とバカテスのコラボ物です。一日一話はきついで、三日に一話ぐらいになりそうです。

59 問僕とキスと新たな教師。(前書き)

とりあえず玲だしました。5巻の所はひじかたの姉を出す予定です。

59 問僕とキスと新たな教師。

土方side

玲さんは姉さんの友達だから、知り合いである。秋子と知り合ったのは今年だけだ。

「土方亮介君と吉井秋子さんは授業の後私の元に来てください。何もしてない、何もしてない。」

授業後

「僕は何もしてませんよ。」

「私の妹の唇を奪ったと聞いてますが？」

「やっぱり姉妹愛でもあるんじゃない？」

「子供の名前は考えていますか？」

「さつき感動した僕がバカだった。」

「そういう関係じゃありません。」x2

僕は秀吉がいるしね。

「亮君には一応彼女がいるんだよ。」

「ナイスフォロー。」

「なるほど、浮気ですか。するならばプライベートでしてください。」

「なぜ、僕が浮気を？そんなこと一つも…あれ、心当たりがあるのは気のせいだ、きっと。」

「まあ、放課後お家に行きますので。」

玲さんがなぜ？

次の休み時間

「嫌な知らせがある。根本とかが戦争の準備をしている。」

「雄二め、きつと根本をこつちに送り主戦力を盗る気かな？」

「みんな、聞いてくれ、土方亮介は三人の美女とキスしてる！」

「なんだとー！」xモブ男子全員

「だから、俺達に協力して異端者に地獄を見せるぞ！」

これって僕が一番酷い目に会いそう。

60 問僕とキスと新たな戦争の予感。

土方 side

あれって雄二だね。何で敵に乗せられてるの？君等、本当に上位クラス？

「代表どうします？」

そう、どうするか。

「漱君、坂田君、高杉君、近藤君はわかってるわよね？」

つまり男子で分らないのは僕と忠志だけ？

「姉御、教えてくだせー。」

チンピラみたいな言葉になってるぞ忠志。

「土方君を餌にして終戦協定を結ばせるのが一番損害が少なくて済むわね。」

それって男子全員にボコられるっていつてるよね？

「まったくもってその通りだ。」x4

全力で肯定された。

「問題は、雄二だね？」

秋子、完全に抜けてないんだね。

「明久なら分かるんじゃないかな？」

秀吉、口を合わせてね？

そんな、こんなみんないるのにキスなんて…

違うよ、口裏の事だから。

「そうだね、明久はよく一緒だったしね。」

ナイス秀吉。

「おい、あまり虐めない方がいいと思うが…」

それって口説いてるの？ならば！

「もしもしツラさ、ツラじゃない桂だ！」はいすみません、悦司が

浮「すぐ行くから待っててね 悦司。」だそうです。

さあ、失意の広野をさまようが良い。これがプールの時の仕返しだ。

次は雄二だな。どうしようか？

60問僕とキスと新たな戦争の予感。(後書き)

感想等送ってくださるとうれしいです

61 問僕とキスと戦争の予感。(前書き)

昨日は投稿できずすみません。気づいたら夜中でした。

61 問僕とキスと戦争の予感。

土方 side

「ぐわあああああ！」

悦司の迎えにきたようだ。

悦司、ツラ退場！

「土方君、貴方生け贄決定ね。」

何故だ、僕は何もしていない。

何、そのみんな僕が悪くないんだと思ってる自己中野郎がみたいな目は？

「貴重な戦力を削ったバカは生け贄なるしか役立たないだそうだ。」

分かりやすく説明してありって待て漱士郎、それ、僕に対する文句？

「女子を使うのはどうなの？」

こっちの方が被害が？

「色じかけとは相変わらず趣味が悪いな亮介。」

優樹、相変わらずって何？僕は英国級のジェントルマンだよ！

「土方君、そういう人なの。」

代表まで！この絶対染めてるだろヒステリッ！ぐは！

何か鉄の物で殴られた。

「安心しろガンブレードで殴っただけだ。」

これで安心できる奴はいない。

「不満か。優樹、お前の太刀で斬ったらどうだ？」

なんか斬りそう…

「斬る訳ないだろう、この太刀で。」

助けてくれるの？片翼でもちゃんとした天使なんだ！

「こんな血がついたら汚れそうだ。忠志、サテライトビーム一つ。」

え？

「ばっくげきー」

あー、降ってきそう、でも天井があるからだいじょ…

意識がー。大丈夫。生きている。

61 問僕とキスと戦争の予感。(後書き)

忠志はラゲナっぽい奴とでも思っていてください。あと主人公は死んでません。

感想くれると嬉しいです。

63 問僕とキスと戦争と異端者。(前書き)

昨日は投稿しわすれていてすみません。

63 問僕とキスと戦争と異端者。

土方 side

あれ…川？あー、確かあれは…じーちゃん？
つて、戻ろう。目を開ければみんながいる…

「ウエルカムトゥーヘル」×45

えーと、日本語に直すと、地獄へようこそ。
つてやつぱ死んだのかな？

「雄二、ここは？」

残念そうに

「チツ、協定の時間か。」

協定つて？の前にみんなの代わりに覆面集団がいる。

「あれ？あなた達誰？」

鎌や鞭などをもった奴等がいる。きっと処刑だろうな、朝やれなかつたから。

「やめろ、雄二！」

聞き覚えのある懐かしい声だな。

「明久！」

「秋ちゃん！」×45

そこまでハモるときもい。

「その人は私の大切な人です。触れた瞬間、根本君並の酷い顔になりますよ？」

ねー、秋子、助けてくれるのは嬉しいけど、本人の前で言ったら…

「ふざけるな吉井！」

ヒュー、ヒステさんと付き合ったらヒステリッ痛い痛い痛い！アイアンクローは無し！

「協定中だから見に来たらこんなに酷いとは思わなかった。根本、迷惑って言葉知ってる？」

うわー、来た瞬間愚痴りでしたよ。

「友香、むか「気持ち悪い、しゃべるな、三つ指ナマケモノ。」
酷い、元彼を動物扱いしてる。」
「できれば友香に迷惑かけて欲しくないんだけど。」

63 問僕とキスと戦争と異端者2 (前書き)

前みたいに一日一話は難しくなりました。勝手ですが、理解してください。

全員に裏切られた。

「根本、生徒指導室でぼつきり聞かせてもらっぞ。
絶対復讐してやる！」

64 問僕とキスと戦争とその後

土方 side

まさか、根本君にあんな事出来るとは…

「坂本君、三つ指ナマケモノは処刑したわ。これにて戦争はおしまい、でいいかしら？」

おお、これぞ和平交渉！平和的だ。

「あとできれば、俺もそつちのクラスに入りたいんだが。駄目なら…」

何あれ？写真集？誰のдар？

「そつちの代表の醜いときの写真と亮介の写真集だ。」
いつ、そんなもの作つたんだよ！

「分かった、交渉に乗ろう。ならこちらからも条件を出す。」
漱士郎、僕を助けて…やっぱりともは大事だよ。

「お前は代表でなくなる。そして、お前の意思では戦争出来なくなる。それでもか？」

確かに…

「ああ、構わねえ。なんせ理由は未来を守るためだったしな。」
すごーい、スケール大きいなー。

「よっしゃー！」x2

悦司と雄二が騒ぎだす。どうした事やら。

「これで、呪縛から解放される！仲間が側にいる。盾だつてある。」
これで俺達は変わるんだー！」x2

何故か二人の会話のスケール大きいよね。

「さて、代表何処潰す。やはり下から？」
優樹、全クラスの制圧かい？

「とりあえず、今回は元神童を獲得したからよしとしましよ。基本は攻めないし。」

おー、平和だ、ヒステ…ゴホンゴホン、代表は。

65 問僕とキスと戦争とその後2

土方side

和平交渉にて集結した戦争の打ち上げとか祝いは何もなかった。派手にお酒のみながら宴会とかしたかったな。

「そつだ玲さんとか来るんだった。急がないと。」

はー、だるい。

まあいいか、家入ろうかな。

ガチャ。鍵を開ける。

お茶あたりの準備しなきゃ……………？

何故か玲さんと秋子に加え、秀吉と優ちゃんがいる。

回想しゅーりよー！。

はい？何故いるの？鍵閉まってたよね？

「亮君、なぜいるの？鍵閉まってたよね？みたいな顔してますよ。」

一字たりとも違ってない。

「まったくもってその通りです。」

「亮君、忘れたの？あたしはこれ持ってるのよ。」

ジャラジャラならしながら見せる。うわー、僕の部屋以外の鍵もめっちゃあるじゃん。

「お姉ちゃん、なんで持ってるの？」

秀吉は知らなかったのかい？

「まさか、亮君、浮気？」

秋子、頼む。目をそらしてることいわないで。

「そついえば、そつでしたね。ですが、土方君と優子さんは婚約者と聞いてましたよ遙から。」

姉さん？つまり昔だろつか？

「後、うちの親の会社社員ですよ、土方君のお父さんは？」

そういえば…

「秋子とも婚約者になっていて…」

あの人何がしたいんだ？

6 6 問僕とキスと戦争とその後3

土方 side

何したいんだ？あのクソオヤジ…ゲフンゲフン、父親は？人に結婚詐欺の疑いかけて何したいんだ？とりあえず確認を。

「もしもし、クソオヤジ！じゃなくて父さん、何僕に結婚詐欺の疑い掛けさせようとしてるんだよ！」

「何言ってるんだ、亮介、知らなかったのか？あと、現代の子供は許嫁の二人か三人はいると聞いているんだが？」
帰ってきたら、常識をたたき込もう。

「土方君、私に代わってください。」
何する気だ、玲さん。

「私は吉井玲と申します。」

「これは玲ちゃん、久しぶりだね、いったい何のよう？」
何、この態度の変わりっぷり。

「彼女持ちな上に婚約者が二人。さすがにまずいかと。」

「おー、ナイスフォロー。」

「わかったよ、今度、また話しよう、亮介を連れてきて。」
何故僕？

「では、いずれ。」

「あっ、切った。聞きたいことあったのに。」

「で、どうなったの？姉さん。しばらく検討するらしいようです。」
秀吉とこの関係を維持できるかな？

「これでしたら安定ね。」

「そうですね、しばらく皆さん忘れていてください。」
「そうそう…しばらく？完全に忘れちゃダメなの？」

「これで解決…なんて訳にはいかないよねー？」

66 問僕と彼女と婚約者

土方 side

「とりあえずつてなに？玲さん。」

「大人になつてから考えればいいじゃないですか。」

まあ、そうでいいか。

「良かったー。」

秀吉？何が？

「亮君が何が？みたいな顔してるわよ秀吉。」

なんでわかるんだろ？

「いや、下手したら亮君とは終わってしまうと思つたらつい…」

ああ、そういうことになるな。ということよりもそこまで愛してくれてうれしいな。

「では、私たちはこれにて。」

「ああ、大事なことを教えてくださりありがとうございます。これで父にお話（処刑という制裁）が出来ます。」

自分の親がなんであんななずれてるの？たぶん、他にいるけど。

秋子、玲さん退場

「優ちゃん達はどつするの？」

嫌な予感がする…

「もちろん、泊まらせてもらつわよ。」

ビンゴ！とか言いたいくらい当たっている。秀吉も同じだろ。

「秀吉もだよね？」

「もちろんだよ、亮君。」

こうして文月の双華が泊まることになった。

個人的にはめっちゃ嬉しいけど、朝日が拝めるか、とても不安だ。異端審問会に処刑される。特に横溝君とかに。

やりたいことはできるだけしよう。遺書書いたりもしなくちゃね。夕飯何にしようかな？

第69問バカとテストと学園祭。(前書き)

前回で四巻分は終了です。五巻に行こうと思いましたが、清涼祭をまだ書いてなかったのでやろうと思います。

第69問バカとテストと学園祭。

土方side

登校中に何もなくて教室に入るのが怖かったけど、後ろにも嫉妬に狂った男子達がいて教室に突入せざるをえなかった。

「ウエルカムトゥーヘル！」

だれか助けてくれるはずだろ。

「おい、お前等やめろ。」

優樹、まさか…

「女子の前でそんなことしたら評判ガタ落ちじゃないのか？それにこいつの血肉をここで散らすわけにはいかない。」

片翼の天使だけあるよ。認めた僕がバカだった。

「助けてやったのにそれか？」

あー、

「ごめん、つい忘れてたよ、お前の戯れ言のせいで。」

「嘆いても遅い。」

あはははは、何をいつてるのかな？嘆く？何それ？おいしいの？

「優樹、そのくらいにしておけ。」

今度こそ助け船が…

「もういいだろう。」

和希も助けてくれるのか？なんて優しいんだ。

「確かにに太刀で斬るのはいけないな。」

いやー、人を斬る自体愚かだと気づこうよ。

「ありがとう三人とも。帰ったら、遺書捨てなきゃ。」

さすがに驚いてるみたいだ。

「お前、昨日何した？」

僕は昨日のことをすべてはなした。

第70問 バカと野球と学園祭。

土方 side

僕が三人に事情を話していたら、男子がみんな居なくなってた。

「ねえ、代表、男子は何処行ったの？」

「野球よ。」

野球…つまり、これは

「俺に任せろ！」

こうしちゃいられない。グラウンドの土が僕を待っている。

「勝負だ悦司！」

ピッチャーは忠志、バッターは悦司、

「雄二、どうすればいい？」

こいつ声が出る。ところで雄二のサインは？

ふむふむ、悦司の股間にストレート、そしてツラさんの所へ連行。

何それ！危なすぎだよ！

「雄二、君はなんてことを考えてるんだ！」

あれ？嫌な予感が…

「今土方が居たぞ！」

この声はてつつんこと鉄人だ。

「貴様等ー！教室に戻らんかー！」

あーあ、予想的中。

「土方、坂本、近藤！貴様等が黒幕か！」

うわ、観戦してる人まで入ってるだど！

「とりあえず、教室に戻れー！」

またあの空間送りか。

第71問バカと出し物と学園祭。

土方side

あの後、結局、教室に連行された。まだ打ってないのに、理不尽すぎる。

「……おまえ等は相変わらずだな。」「……いやー、誉めてると受け取っていいよね？」

「清涼祭についての出し物を決めようと思うの。何かないかしら？」
うーん、下手したら僕が痛い目みるから気をつけなきゃ。

「……はい。」「……ムツツリーニが手を挙げた。あいつのことだから男子が喜ぶ内容だろう。」

「……写「却下よ、次行きましょう。」「……酷い。」

女子は嫌かもしれないけど、男子はとても助かってるのに。

「他にないかしら？」

メイド喫茶は多分出るだろう。なんか斬新な奴が欲しいな。

「友香、茶道部なんだから和風の喫茶店とかはどうだ？」

何か新しい気がする。

「みんなそれでいいかしら？」

クラス全員が同意する。この二人息ぴったりなんだけど単なるクラスメートというね、実に残念な男女なんだよ。

「最近、ガンブレードを使わないな、学校で。」

えー、それって、前は使っていた。さらに学校以外じゃ使うことになる。にしてもこのクラスの人たちは銃刀法というものをしってるのだろうか？

漱土郎はガンブレード、和希はバスターソード、優樹は太刀、忠志はマシンガン。危ない。

第71問 バカと喫茶店と学園祭。

土方 side

先ほど斬られかけたけれど、説得により、助かった。

「料理はどうするの？」

誰かが言った。それはこちらも知りたい。

スクツ

「ムツツリーニ、料理できるの？」

親指を立てて

「料理は紳士の嗜み、できない奴は女装して生きるべきだ。」

マジで！

と思うたか！どうせ、巫女服目当てにそんな感じの店に行つてただけに決まってる。

「喰らえ。」

ガツン！ボタン！

あ、ムツツリーニが…漱士郎の踵落とし…本人曰くヒールクラッシュが炸裂。

「ムツツリーニ！」

いつもと違う意味でやばい。

「とりあえず、厨房班は、しかば…じゃなくて、した…じゃなくて土屋君？のところへ、ホールは私と木下さんのところへ。」

とりあえず、厨房へ…

ガシッ！あれ？動けないぞー？

「亮君はもちろんホールだよね？」

まさか…

「僕なんかより、秀吉とか秋子とか、可愛い子がするべきだよ。」

まさか女装させる気じゃ？

「土方君の女装写真、とても人気あるらしいわよ、ムツツリ商会という取引先じゃ…私なんかより…」

やばい、代表のヒステリックではなく、優樹のリユニオン時の翼並みに黒いオーラが…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4939v/>

僕と親友と召喚獣

2011年12月5日23時56分発行